春風目録新聞

特集

この星のことば

池内紀　堀江敏幸　長田弘
小池昌代　佐々木幹郎

写真：橋本照嵩

ことばを生業とする身として、この一年はきつかった。何かを読むたびに、書くたびに、ことばが別のものになってしまったことを痛感した。自分のことばがどれほど上っ調子かも。あの瓦礫の山を思いながら何が言えるか。立派なことを言うというんじゃない。ただ、ことばに誠意をもつこと。そんな当たり前のことがとても難しい。それでも、ことばをもって生きたい。

（編集部）

『アメン父』
池内紀

作家田中小実昌（こみまさ）の父親は種助といって牧師だった。若いころアメリカに渡り、皿洗いや農場の手伝いなどさまざまな体験をするなかで洗礼を受けた。大正九年（一九二〇）プロテスタントの牧師として東京・千駄谷の教会に赴任。

「……大正十四年四月にぼくが生まれ、そのころから、父ははげしくなやみだしたらしい。信仰がわからなくなったということだが、教会の牧師が信仰がわからなくなり、なやんだりしてはこまる」

田中小実昌の『アメン父』（河出書房新社　一九八九年刊）は父の伝記である。アメリカでキリスト教を知り、日本に帰って牧師になった人が、あるところから悩みだし、宗派も教義もすてた。信仰を疑い、祈りのことばを失い、その上で信仰に生きた。いや、「信仰に生きる」といったウソっぽいことはいっさい拒んで、ただ祈る人になった。自己否定の極限にいたっても祈りだけはすてない。しかし、祈ること自体を疑うわけだから、祈ることばがなくなってしまう。

「アサはじっとしておれんはずであります。なぜならば、打ってくるものにあうからです……」

父親が軍港の町呉（くれ）につくったどこの派にも属さない教会は、日本家屋で畳がしいてあって、十字架も祭壇もなく、地区の集会所といった感じだった。少数ながら信者がいて、説法の日に集会がある。そのときの田中種助の「はなし」を教会の人がテープにとって、のちに簡素な本にした。息子はそこから引用しながら、父が何に悩んだかをたどっていく。キリスト教の説くことが「しっくりこない」。了解できないのに、わかったふりはできない。

「事実と事実、神を受ける事実と、おかしなことだが、自分を受けるということの事実がある」

疑いを徹底させてことばを削りとり、そこに追加をほどこすことを禁じるわけだから、フシギな日本語が生じてくる。にもかかわらずそれが奇妙な説得力をもって迫ってくる。そんじょそこらの宗派や宗教人が建てたバカでかい聖堂を尻目にかけて、ただ祈る人のことばは星にとどくほど遠い。

三本のオレンジの木
堀江敏幸

傾いた首を傾いたままの機体にあわせて、下方へ遠ざかっていく農地を眺める。楕円の窓のむこうの世界には、風も匂いもない。激しいエンジン音に飲まれていっさいが奇妙な沈黙のジオラマと化し、零下何十度の冷気さえ虚構となった気密室の住人の目には、もはや軽やかな厚みのある白い雲海の上にあるものしか映らなくなっている。

澄み切った光と闇。遮るもののない天空の、さらにその上方の成層圏の彼方にあるなにかが、かすかに明滅する。地上を飛び立ってからわずか数分で宙に浮かぶ雲の海を突き出てしまう技術を手にした私たちは、瞬く存在との対話の質を変えてしまった。不可視の電波を巨大な鉄の傘で追い、零と一からなる情報に転換したうえで、読むのでも語りかけるのでもなく、「解析」するようになった。途方もなく遠い事象を捉えるには、数字と記号に転換できる所与こそが重要なのだと言いつのり、そこからこぼれ落ちた濁りのある言葉を受け入れなくなったのである。

二〇世紀初頭のある日、初期の不安定な飛行機ではじめての航路を飛ぶことを命じられ、どこをどうたどればいいのかと助言を求めた仏国の若い飛行士に、経験豊富な先達は、雲上の羅針盤ではなく、下界を目視することの意味を語った。地図上の記号よりも、分岐点となる山腹の畑地に沿って立つ三本のオレンジの木々を、闇の中の農家の灯りを、つまりは人肌を残す風景を見失わないこと。

下界を無視して虚空を見上げることに意味はない。言葉を作ることに「詐」の側面があるとしても、見えない山頂との衝突の危険を意識しつつ眺めてこそ、雲の海は記号であることをやめるのだ。いま、この星の壊れかけた世界を取り戻すためには、既製概念の地図に、具体的な言葉をひとつひとつ描き込まなければならない。たとえそれが、闇の訪れとともにたちまち見えなくなる、頼りないオレンジの木のごときものであったとしても。

【2面へつづく】

シーシキンの森の絵
長田弘

果てしない森の静寂。
緑濃い森のうえの、
乳白色の空のひろがり。
遠く光る一すじの河の流れ。
森のはずれ、咲き散る白い花々。
雨の樫林を遠ざかってゆく人。
深い森のなかに、恩寵のように、
射しこんでくる日の光。そうして、
無言の光景の、ずっと奥のほうから、
仄かに伝わってくるぬくもりのようなもの。
わたしは、十九世紀ロシアの
風景画家たちの森の絵が好きだった。
森の樹の葉の一枚一枚まで、
精細に、ひたぶるに描ききって、
空色の大気を呼吸する
森のすがたしか
生涯描くことをしなかった、
たとえば、イワン・シーシキンの森の絵が。
森の佇まいが描かれているだけなのに、
その森の絵には、ひそやかな気高さがあって、
何でもない森の光景にすぎないのに、
あたかも聖なる風景のような。——
風景画は絵の一つというのとはちがう。
それはまったく独自の芸術だったのだ。
人はこの世界の主人公ではない。
自然の一部にすぎない。エゴは存在しない。
シーシキンの森の絵はそうだったのだ。
風景画家が没したのは二十世紀前夜だった。
それから後の、この星の、この世界の、
不幸は何だと思う？
そして、到来したのは、
ゆたかでまずしい時代だった。
わたしたちは、畏れることを忘れた。
ツユクサの露を集めて、顔を洗うことを忘れた。

イワン・シーシキン（一八三二—九八）風景画家

春風社
Shumpusha Publishing Co., Ltd.
〒220-0044
横浜市西区紅葉ヶ丘53
横浜市教育会館3F
TEL (045)261-3168
FAX (045)261-3169
www.shumpu.com
✉ info@shumpu.com

目録

哲学・思想・宗教 1 2
文芸評論 2
文学／写真・音楽・芸術／健康／詩歌・俳句／総記・辞典・事典／立教大学人文叢書 3
政治・経済／観光／言語／環境／生き物／技術・工学 4
教育／マスメディア／心理／スピリチュアル／アジア史 5
社会・歴史／人類学 6

連載

翻訳ピンチ！
中条省平 2
日々の風
長谷川宏 3
ポストモダンの処方箋
白井聡 4
mini大河
しりあがり寿 5
思想の場所
中島岳志 6

コラム

粋でシャイな横浜のおじさん　**渡辺真理** 5
自著を語る 3
この研究室が面白い！ 4
本屋に行こう 5

哲学◎思想◎宗教

リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション
稲垣諭（東洋大学助教）病を生きる患者の体験に接近するために哲学的思考を導入する。そのとき、人間の経験の未知の領野がたちあらわれる。臨床と現象学を結ぶ新たな哲学！（4面に著者インタビュー）［四六判／二五〇円］
ISBN 978-4-86110-303-2

同一性の形而上学—映画・SF・探偵小説
村上隆夫（群馬大学教授）古代円形劇場から近代の半円劇場、現代の映画へ。「同一性」を救い出す哲学の試み。［A5判／五八八〇円］
ISBN 4-86110-069-3

『方法叙説』をめぐる六つの試論—日本の思惟と西欧の思惟に介在する深淵
小林利夫（『小林利夫フランス語教室』創設者）著／**徳永雅**（関西学院大学他兼任講師）編　デカルトを嚆矢とするフランス哲学はもとより、西欧の言語及び西欧人の思惟の根底に迫る。広く西欧の言語と思想に関心をもつ読者への最良の入門書。支倉崇晴氏推薦。［四六判／三八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-254-7

サルトルとマルクス—見えない『他者』の支配の陰で／II 万人の複数の自律のために
北見秀司（津田塾大学教授）フーコー、ドゥルーズ、デリダ、ネグリの「後の」サルトル。未公刊「ローマ草稿」をふくむサルトルの全哲学を縦横に展開し、真の民主主義の可能性を探求する。［四六判／各巻三五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-213-4
ISBN 978-4-86110-214-1

世界内存在の解釈学—ハイデガー「心の哲学」と「言語哲学」
荒畑靖宏（成城大学専任講師）「言語」の観点から、英米哲学とハイデガーを接続。『存在と時間』の不整合を指摘しつつ、後期思想につながる精髄をえぐり出す。［四六判／三三〇〇円］
ISBN 978-4-86110-182-3

ヤスパース—人間存在の哲学
吉村文男（奈良産業大学教授・京都教育大学名誉教授）脳のシナプス、DNAなどの「客観的事実」へ人間を還元する時代の趨勢のなかで、「永遠の哲学」者ヤスパースは、われわれに何を開示するのか？［A5判／四八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-260-8

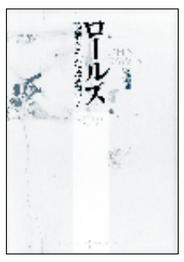
学び住むものとしての人間—「故郷喪失」と「学びのニヒリズム」を超えて
吉村文男（奈良産業大学教授・京都教育大学名誉教授）危機にある日常の営みを哲学的に考察し、人間中心主義の陥穽に挑む！［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-86110-078-X

小林秀雄とウィトゲンシュタイン
中村昇（中央大学教授）ウィトゲンシュタインを経由することで浮かびあがる「哲学者」としての小林秀雄！［四六判／二六二五円］
ISBN 978-4-86110-106-9

ちいさな哲学
長谷川宏（哲学者）食、医療、身内の死、若者の生きづらさ、読書の楽しみなど、ささやかな日常の風景に隠れている真実をみつめる、珠玉のエッセイ集。公害病に押しつぶされながら沈黙を強いられた水俣市民の極限の姿を描く幻の論考を収録。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-192-2

犠牲と身代わり—記憶できないものをめぐって
長田陽一（京都光華女子大学准教授）思い出すことは記憶を喪失すること——死の代理不可能性をめぐるハイデガーとレヴィナスの議論などを補助線として、記憶を成り立たせている外部性—記憶の他者へと迫る。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-275-2

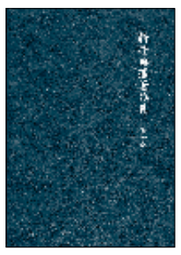
待つしかない、か。—二十一世紀 身体と哲学
木田元（哲学者）／**竹内敏晴**（演出家）哲学と前衛演劇—異なる分野で戦後日本をしぶとく生き抜いてきた二人が思想と身体、絶望と希望をめぐり激しく語り合う。（品切）［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-214-1



ロールズ 誤解された政治哲学—公共の理性をめざして
堀巌雄（研究者）博士論文から没後の著作までを丹念に読みとき、その新たな可能性を汲み上げる！［A5判／四九三五円］
ISBN 978-4-86110-112-0

河合榮治郎の社会思想体系—マルクス主義とファシズムを超えて
青木育志（アナリスト）人格主義と理想主義にもとづく「第三期自由主義」を唱えつづけた思想家の再評価をうながす。［A5判／三九九〇円］
ISBN 978-4-86110-272-1

滝沢克己を語る
三島淑臣（九州大学名誉教授）監修
荒井献、最首悟など、豪華執筆陣の競作！　西田幾多郎の哲学とキリスト教神学を融合した独創的な思想家を多角的に語る。［四六判／三八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-206-6



新井奥邃著作集
工藤正三（新井奥邃先生記念会幹事）・**コールダニエル**（福岡女学院大学准教授）共編
森有礼の指示により滞米二八年。帰国後、田中正造をはじめ明治の知識人に深い感化をあたえたキリスト教神秘主義者の全貌。各巻に解題と豪華執筆陣による月報を付す。［A5判／全十巻／各巻六八二五円］

知られざるいのちの思想家—新井奥邃を読みとく
新井奥邃先生記念会監修　奥邃の教育観、儒教観、スウェーデンボルグとの比較等を詳解。［A5判／二〇〇〇円］
ISBN 4-921146-02-0

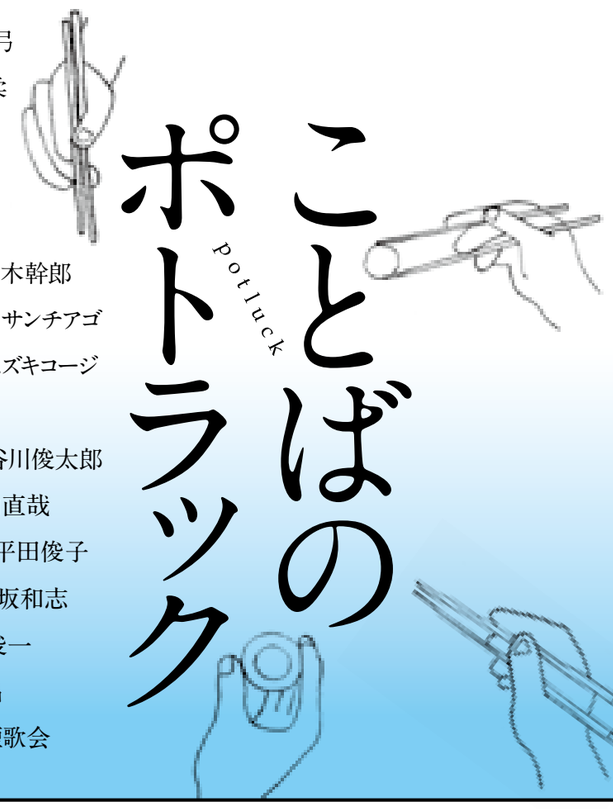
釈譜詳節 上・下
朝鮮世祖 纂述／河瀬幸夫（高麗大蔵経研究所駐日研究員）**訳**　朝鮮半島における仏教文化の集大成、一五世紀のハングル仏典『釈譜詳節』『月印千江之曲』『月印釈譜』を一挙翻訳、その全貌に迫る。（中巻二〇一三年刊行予定）［A5判／各巻六八二五円］
ISBN 978-4-86110-209-7
ISBN 978-4-86110-271-4

朝鮮神話の源流—「パリ公主神話」と「ダンクン神話」を巡って
金香淑（目白大学専任講師）朝鮮神話の「巫俗神話起源説」を批判的に捉え、文献神話が先に成立した可能性を指摘するスリリングな論考。朝鮮神話への仏教の影響を論証し、朝鮮文化の独自性をも示唆する。［A5判／四七二五円］
ISBN 978-4-86110-313-1

絶対無と神—京都学派の哲学
小野寺功（清泉女子大学名誉教授）「真剣に生きようとする人にとって必須の書。単なる流行思想でなく、最高最深の問題である」鈴木亨（哲学者）［A5判／四八三〇円］
ISBN 4-921146-47-0

東日本大震災後、表現者たちが東京のライブハウスに持ち寄り（ポトラック）、発表した新作を完全収録。人びとと東北を思いながら手さぐりした稀有の記録！

ことばのポトラック
potluck



大竹昭子 編

Ayuo　石川美南　稲葉真弓
大竹昭子　岡井隆　温又柔
角田光代　片岡義男
唐作桂子　河瀬直美
清岡智比古　くぼたのぞみ
栗木京子　小池昌代　佐々木幹郎
アツコ・バルー　ヴァルデマル・サンチアゴ
レナ・ジュンタ　管啓次郎　スズキコージ
関口裕昭　デビット・ゾペティ
高橋ブランカ　高橋睦郎　谷川俊太郎
旦敬介　長島有里枝　畠山直哉
ピエール・バルー　東直子　平田俊子
文月悠光　古川日出男　保坂和志
穂村弘　堀江敏幸　開村俊一
ミーヨン　南映子　森村泰昌
J.M.G.ルクレジオ　早稲田短歌会

［A5判変型・並製・四〇〇頁／一八九〇円］ISBN 978-4-86110-310-0

「俗語」から「国家語」へ
——スペイン黄金世紀の言語思想史
岡本信照（京都外国語大学准教授）
ネブリハ『カスティーリャ語文法』以降の議論を整理しながら、俗語としてのカスティーリャ語が、ラテン語の後退とともにいかにしてスペイン語という国家語に変貌したのかを明らかにする。
［四六判上製・二九六頁／三五〇〇円］ISBN 978-4-86110-291-2

仮説法の倫理学
——ポー・パース・ハイデッガー
村上隆夫（群馬大学教授）
現代の倫理学を特徴づけるものは何か。パースのプラグマティズムを軸に、カントやニーチェ、ハイデッガー、ポーを参照しつつ描き出される倫理学の歴史的展望。
［A5判上製・六〇〇頁／五八八〇円］ISBN 978-4-86110-309-4

斎藤喜博研究の現在
横須賀薫（十文字学園女子大学学長）編
斎藤喜博とは何者であったのか、客観的価値はどこにあるのか、教授学研究にかけた思いとは。教育界に一時代を画した斎藤喜博の営為を時代につなぐための白熱の研究論考。子どもの未来を本気で考え、実践するための必備必携の書。
［四六判仮フランス装・五六四頁／四八三〇円］ISBN 978-4-86110-314-8

デイケアの心理学
浮田徹嗣（横浜市立大学准教授）
高齢患者への接し方、患者家族との協力、ロール・プレイングを利用した他者理解から、終末期医療における意思決定、ノンコンプライアンス対策、認知症患者の感情問題まで、豊富な事例をまじえつつ論じる。カウンセラー、医師、コメディカルスタッフ必読！
［四六判上製・三四四頁／三一五〇円］ISBN978-4-86110-306-3

山崎問題
小池昌代

言葉は物とは違う。頻度多く使っても、その分、消耗するということはない。本当にそうか。実際はずいぶん消耗しているように見える。言葉それ自体も言葉を受け止める側も、そして言葉を発信する側も、無意識に使っている分、消耗してはいないか。

震災後、「絆」という言葉が多出した。でも「絆」は、もっともっとずっと前から日本語にあって、すでにずっと前に、くたびれ果てているように見える言葉だった。兄弟の絆とか、親子の絆とかね。さらに、絆はないより、あったほうがいいので、言葉自体に、正しいという価値のニュアンスが入ってしまう。こういう言葉はやっかいだ。絆は感じるもので、言葉にはしないほうがいい。愛もまた。こう思うのは、わたしが日本語を使う日本人だからだろうか。

繰り返し幾度も使われることで、言葉自体の価値は下がる。おそらく言葉は、「このためにこそ、一回、使ってみました」という感じが、最高にふれしい使われ方なのだろう。

たとえば石。たとえば爪切りなど、無機物である物の名は、書き方次第で、様々なイメージを運ぶ。それ一語で、善悪、正誤などの価値を運ばない。こういう言葉は、埃がつきにくい。地名や人名もそうだ。

わたしは何百回、まさよと呼ばれても、まさよが消耗したとは思わないばかりか、もっといろいろな人に呼んでもらいたい（大抵は、小池さんと呼ばれています）。

人名について言えば、あるとき、読者の方から、「この小説の主人公は、どうしても山崎という苗字だという気がした。心のなかで、そう呼びながら読み続けた」と言われ、「そこまでか」と驚き、「なるほど」と納得したことがある。わたしは主人公に、山鹿という、ちょっと特殊な苗字をあてていたのだったが、読者の妄想やイメージを呼び込みやすいのは山崎のほうだったかもしれない。普遍性と特殊性のバランス。山崎問題として自戒している。

「酔う」ということ
佐々木幹郎

地球という惑星以外に人間と同じような生物がいるとして、その生物は「酔う」ということがあるのだろうか。

何かに陶酔する、という精神的なことも含めて、もっと具体的に、酒に酔う、ということ。

発酵と醸造・蒸溜学の専門家に教えてもらったのだが、スコッチ・ウイスキーを造るときに使われる酵母（イースト）は、死ぬ寸前に重要な働きをするという。

ウイスキーの原料は大麦だが、その大麦を「麦芽（モルト）」にし、それをお湯と混ぜ合わせて「麦汁」が造られる。そこに酵母を入れて発酵させる工程がある。発酵時間が長くなると、酵母の働きが停止する時期がくる。この停止期以降の過程で、酵母の衰弱期と死滅期がやってくる。

酵母が衰弱から死滅に到るまでの間に、ゆっくり時間をかけて乳酸発酵が起こる。さまざまな種類の乳酸菌が、入れ代わり立ち代わり生まれるらしい。この乳酸発酵の過程が、スコッチの香りと味わいとコクを造り出すのだという。わたしたちがウイスキーに酔うのは、アルコール成分によってだけではなく、ここで生まれる香味成分によっている。

酵母というのは、やってくれるではないか！　自らが死ぬ寸前に、最も重要なものを運んでくるのである。酔うことの文化はここから始まる。

わたしたちはこの酵母の働きと同じように、死ぬ寸前に良い香りや味を、自らのなかから引き出すことができるだろうか。永遠の生命など、欲しいとは思わない。老いて死ぬとき、他の生きものを酔わせるように働く微生物は、愛おしい。地球の上の人間はその微生物の成果を受けとめようとする。中原中也訳のランボーが次のように歌うのは、もちろん、精神的なことだけではない。

「あ、！　心といふ心の／陶酔する時の来らんことを！」（「最も高い塔の歌」）

■

中条省平◎翻訳ピンチ！
9 どうする、ダブルミーニング？

フランス革命を舞台にした大冒険歴史ロマン『デ・トゥーシュの騎士』（ちくま文庫）を訳了しました。前回はここに出てくる魚の名前が訳しにくいというお話をしましたが、今回は虫の話です。

この小説の主人公はデ・トゥーシュという名の騎士です。フランス史には、生涯、女装で人の目を欺いた有名なデオンという剣豪の騎士がいて、種村季弘の『詐欺師の楽園』にはこの人物の卓抜な評伝が載っていますが、デ・トゥーシュの騎士も、本物の女性をしのぐ女性的美貌の持ち主で、なおかつ剣の名人であり、敵である共和派の兵士たちを慄えあがらせます。

このデ・トゥーシュに共和派のつけた渾名がGuêpe、普通は「スズメバチ」ということになります。もちろん、デ・トゥーシュの剣の容赦なさを表現する比喩です。ところが、フランス語にはtaille de guêpeという決まり文句があって、直訳すれば「スズメバチの胴」ということになります。これは何を意味するか？　スズメバチのようにキュッとくびれた腰のことなので、日本語だと「柳腰」というところでしょうか。

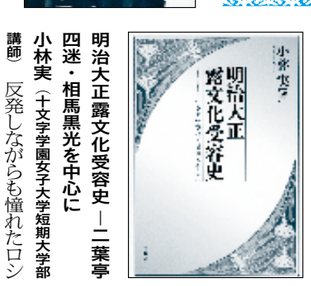
つまり、guêpeの一語によって、主人公デ・トゥーシュの、凶暴な蜂のように人を刺す残酷さと、腰つきのほっそりした女性的容姿の美しさという、相反する二面的特質が示されているのです。

だとすると、guêpeを文字どおり「スズメバチ」と翻訳したのでは、デ・トゥーシュの女性的特質というこの小説の肝心かなめのチャームポイントを捉えそこねることになります。そのうえguêpeは女性名詞なので、しぼしばデ・トゥーシュはelle（彼女）という代名詞で指示されることになります。これもまたデ・トゥーシュの女性的性格に引っかけた言葉遊びなのです。さて、どうしましょうか？

私は「女王蜂」という苦肉の訳語を当てて、蜂の攻撃性とデ・トゥーシュの女性性を同時に表現してみました。たかが翻訳。でも、ひとつの単語にもけっこう気を使っているのです（汗）。

（学習院大学・仏文学）

イラスト：たけなみゆうこ



大地の文学
小野寺功（清泉女子大学名誉教授）
賢治・幾多郎・大拙の思想を媒介に賢治を読み解く、「東北の哲学」の試み。［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-86110-019-4

聖霊の神学
小野寺功（清泉女子大学名誉教授）
西田哲学を媒介にキリスト教三位一体論を現代によみがえらせる！［A5判／函入／七九八〇円］
ISBN 4-921146-81-0

スウェーデンボルグを読み解く
日本スウェーデンボルグ協会（JSA）編　鈴木大拙、森有礼、新井奥邃、田中正造、リンカーン、カーネギーらを交差させ、信仰の有無や宗教・宗派を超えた神秘家の普遍性を示す。［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-130-4

明治のスウェーデンボルグ ―奥邃・有礼・正造をつなぐもの
瀬上正仁（思想史家／整形外科医）
日本人の心と神秘主義思想との知られざる接点。［四六判／三〇〇〇円］
ISBN 4-921146-28-4

風についての省察 ―絶対無の息づかいをもとめて
松山康國（関西学院大学名誉教授）
京都学派とエックハルトの思想を武器に神秘主義の妙味へと迫る。［A5判／三五〇〇円］
ISBN 4-921146-85-3

信仰の美學
阿部仲麻呂（サレジオ会司祭）「若き神学者の瞑想から生まれた珠玉の文章」渡部昇一［A5判／九九七五円］
ISBN 4-86110-028-3

思想のレクイエム ―加賀・能登が生んだ哲学者15人の軌跡
浅見洋（石川県立看護大学教授）　西田、大拙、逢坂元吉郎、高橋ふみほか加賀・能登にゆかりの深い思想家の人生と哲学。［四六判／三六七五円］
ISBN 4-86110-068-2

西田幾多郎 ―生命と宗教に深まりゆく思索
浅見洋（石川県立看護大学教授）　日常に宿された具体的諸問題を起点とし、そこを徹底的に考え抜くことによりその根源に迫る。［A5判／三五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-185-4

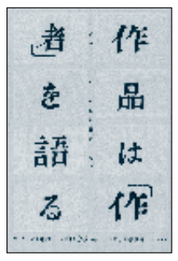
二人称の死 ―西田・大拙・西谷の思想をめぐって
浅見洋（石川県立看護大学教授）　「偉大な先達の〈悲しみの仕事〉が説かれている」（日野原重明・序文より）悲哀から哲学をとらえ返す。［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-921146-75-6

対話論神学の地平 ―私の巡礼のなかから
延原時行（敬和学園大学教授）　宗教間対話はいかに行われるべきか？　西田幾多郎とホワイトヘッドの間に神学の原理を探る。［A5判／四五〇〇円］
ISBN 4-86110-081-X

源信とパウロ ―『往生要集』と『書簡』における神秘主義の比較
高見伊三男（牧師）　仏教とキリスト教における巨人を神秘主義の観点から比較。対話と前進の新たな可能性。［A5判／三三六〇円］
ISBN 978-4-86110-123-6

聖書における愛 ―イエスの愛とパウロの愛
高見伊三男（牧師）　まことの、確かな、模範的な、永遠なる愛は存在するか？　イエスとパウロの言動を参照しながら、さまざまな愛の土台・根本となりうる「アガペー」としての愛をわかりやすく丁寧に語る。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-287-5

茶の本
岡倉天心著／ソーントン不破直子（日本女子大学名誉教授）**訳**　歴史的名著がこれまでにない親しみやすい訳でよみがえる。茶道初心者もこれなら読める！［四六判／一三六五円］
ISBN 978-4-86110-191-5



作品は「作者」を語る ―アラビアン・ナイトから丸谷才一まで
ソーントン不破直子（日本女子大学名誉教授）・**内山加奈枝**（日本女子大学講師）**編著**　ロラン・バルト以後の「作者」とは何か？　時空を越えた幽霊としての作者を示した丸谷才一『輝く日の宮』など、八つの視点から「作者」を探究する。［四六判／三〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-292-9

民話の森の歩きかた
樋口淳（専修大学教授）　シンデレラは日本にもいる？　赤ずきんはドイツ人、それともフランス人？　青ひげはジャンヌ・ダルクの心の友？　世界中で語りつがれる五つの物語を読み解く。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-273-8

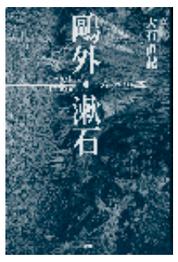
文芸評論

テクストの思考 ―日本近現代文学を読む
林浩平（詩人・恵泉女学園大学特任准教授）　小説は、詩は、どこへ行くのか。王道の日本文学から、萩原朔太郎・瀧口修造の詩作品、穂村弘やJ文学まで、縦横に「読む」。［A5判／三二〇〇円］
ISBN 978-4-86110-253-0

龍の星霜 ―異端の劇作家 青江舜二郎
大嶋拓（映画作家）　二〇世紀という激しい時代のうねりの中で、運命に翻弄されながらも力強く生きたひとりの劇作家の生涯を、長男である映画作家がドラマチックに描く。［四六判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-274-5

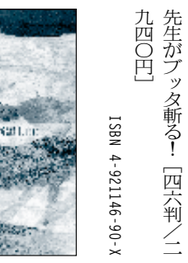
法隆寺
青江舜二郎（劇作家）　修羅として生きた太子の人間像を浮き彫りにする幻の戯曲。岸田演劇賞受賞。［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-225-7

明治大正露文化受容史 ―二葉亭四迷・相馬黒光を中心に
小林実（十文字学園女子大学短期大学部講師）　反発しながらも憧れたロシア文化を、日本人はいかに受け入れ、血肉化したか。［A5判／六八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-219-6



鷗外・漱石 ―ラディカリズムの起源
大石直記（明治大学教授）「近代」を問い続けた思想家として鷗外・漱石を読む。［A5判／五八八〇円］
ISBN 978-4-86110-175-5

長塚節『土』―鈴木大拙から読む
安田速正（農業従事者）　漱石も絶賛した近代日本文学の異端児、長塚節の宗教性に迫る！　土にまみれて生きた『土』の作者は、どうして歌集『鍼の如く』をものしたのか。［四六判／三三一〇円］
ISBN 978-4-86110-252-3



名刀中条スババババン!!
中条省平（学習院大学教授）　表現の最前戦を仏文学者・チュージョー先生がブッタ斬る！［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-921146-90-X

荒野へ　鮎川信夫と「新領土」―
中井晨（同志社大学名誉教授）　戦前モダニズム詩の拠点『新領土』の全バックナンバーと同人たちの書簡、日記を精査。Ⅱ巻二〇一三年刊行予定。［A5判／九八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-096-3

ぼくの交遊録
岡井隆（歌人）　寺山修司や吉本隆明をはじめ、五十数名に及ぶ作家、詩人、歌人、俳人との邂逅と交遊が伝える戦後から現代への息吹!!［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-044-5

インタビュー現代短歌 ―うた・ひと往来
及川隆彦（『短歌往来』編集長）「短歌往来」編集長による「編集長インタビュー」。歌人、詩人、評論家六二名の言葉が一冊に！［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-86110-066-6

桃源郷とユートピア ―陶淵明の文学
伊藤直哉（桜美林大学教授）　人間の歴史の愚かさを知り抜く田園詩人、隠逸詩人の汲めども尽きぬ味わいを堪能。［四六判／二八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-218-9

小出楢重と谷崎潤一郎 ―小説「蓼喰ふ虫」の真相
小出龍太郎・明里千章・荒川朋子　名作に秘められた小出家にまつわる謎を追う！［四六判／二六二五円］
ISBN 4-86110-084-4

小出楢重 ―光の憂鬱
小出龍太郎（大阪芸術大学短期大学部教授）　夭折の洋画家の実像を孫が語り明かす。［四六判／二三一〇円］
ISBN 4-921146-34-9

文学にひそむ十字架
小出龍太郎（大阪芸術大学短期大学部教授）　ユング心理学とキリスト教の視点から、文学にあらわれた人間の心理と行動を分析。［A5判／三三六〇円］
ISBN 4-921146-19-5

平家物語・装置としての古典
高木信（相模女子大学専任講師）　批評理論を援用した性・死・共同体をめぐる物語解釈。ナショナリズムと古典の関係とは。［四六判／四八三〇円］
ISBN 978-4-86110-139-7

古代歌謡と南島歌謡 ―歌の源泉を求めて
谷川健一（民俗学者）　南島文化に今なおいきづくアニミズムの息吹。万葉から芭蕉までを通覧し、日本人の魂の秘密にせまる。［四六判／二五二〇円］
ISBN 4-86110-058-5

ちょっと、教養 ―20代女性のための芸術案内
小出龍太郎（大阪芸術大学短期大学部教授）　バッハからゴッホ、ブラマンクまで。音楽・映画・絵画・文学の傑作を紹介。［四六判／一六八〇円］
ISBN 4-86110-008-9

見えないものを見る力 ―ケルトの妖精の贈り物
風呂本武敏（愛知学院大学教授）　この世の中のほんとうの姿とは何か？　妖精の国アイルランドの文化・歴史・文学を語る。［四六判／三三〇〇円］
ISBN 978-4-86110-094-9

Beowulf
橋本修一（千葉工業大学准教授）　アングロサクソン文学を代表する叙事詩を「魔女」「怪物」「龍」などのテーマで読みとく（英文）。［変型判／二一〇〇円］
ISBN 4-86110-060-7

『ベーオウルフ』とその周辺 ―忍足欣四郎先生追悼論文集
唐澤一友（駒澤大学准教授）**編**
『ベーオウルフ』研究の泰斗の学恩に感謝し、三六名が寄稿。未発表のものを含む忍足先生の論文五編を巻頭に収める。［A5判／八四〇〇円］
ISBN 978-4-86110-190-8

原典対照『ベーオウルフ』読解
長谷川寛（元日本大学教授）　原詩三一八二行のすべてに詳細な語釈を加え、二種類の日本語訳（擬古文訳と現代文訳）を併記。原文を参照しながら味読できる画期的『ベーオウルフ』。［A5判／九四五〇円］
ISBN 978-4-86110-230-1

古英語詩を読む ―ルーン詩からベーオウルフへ
吉見昭徳（明治学院大学名誉教授）
「ルーン詩」「マルドンの戦い」など、貴重な原典を併載し試訳。詳細な注釈・論考を加える。［A5変型判／四二〇〇円］
ISBN 978-4-86110-135-9

ルーン文字の探究
ラルフ・W・V・エリオット著／吉見昭徳（明治学院大学名誉教授）**訳**
ルーン文字碑文と古英語時代のアングロ・サクソン文学との関連を探る。［A5変型判／四五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-183-0

ミルワード氏の英文学散歩 ―ルネッサンスから現代へ
ピーター・ミルワード編著／橋本修一（千葉工業大学准教授）**訳**　シェイクスピアからギッシングまで、英文学の達人が厳選した四五作品を紹介し、作品の時代背景や思想を解説。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-167-0

イギリス　イメージ横断 ―表象と文学
要田圭治（広島大学准教授）・**田原光広**（広島大学准教授）・**吉本和弘**（県立広島大学准教授）**編**　マンビー、オーウェル、ブレイクなど、十八世紀から二十世紀までの多彩なイギリス文化・文学を取り上げ、その諸相に分け入る。［四六判／三五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-278-3

ヘンリー・フィールディング伝
澤田孝史（東京国際大学教授）　当代一の人気作家は借金まみれの浪費家であり勤勉な法律家でもあった。その奔放な生涯と、虚栄と偽善に満ちた当時の社会背景を克明にえがきだす。［A5判／四五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-231-8

ディケンズ、フォースター、オースティン ―いまに生きるイギリス小説
藤田永祐（獨協大学教授）　いまなお読まれつづける名作をドストエフスキーや漱石にも論及しながら味読。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-154-0

チップス先生の贈り物 ―英文学ゆかりの地を訪ねて
長井那智子（エッセイスト）　作家の生家や作品を執筆したパブ、物語の舞台などをめぐる。［四六判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-115-1

ピースの丘から ―友、旅、暮らしの歳時記
山口弘恵（武蔵野大学名誉教授）　英文学者が過ぎし日を思いながら綴る。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-186-1

女たちの英米文学・シアター ―タカラヅカから映画まで
山口弘恵（武蔵野大学名誉教授）　舞台や映画にあらわれた〈男と女〉の文学論。［A5判／一八九〇円］
ISBN 4-86110-003-8

モームの文学宇宙 ―仮面に隠れた人間観察
柏原啓佐（元奈良産業大学教授）　作品の詳細な分析からその魅力の秘密を解き明かす。［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-921146-66-7

オーウェル文学の源流を求めて ―その想像的創造力の源泉
高橋鍾（宮崎大学教授）「反共作家」等政治的レッテルを貼られがちなオーウェル作品に内在する「読み」の可能性を読み解く。［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-170-0

カズオ・イシグロ ―〈日本〉と〈イギリス〉の間から
荘中孝之（京都外国語短期大学准教授）
イシグロ文学にひそむ「日本的なるもの」とは何か。川端や谷崎を参照しつつ、日英における受容の違い、母性憧憬などをテーマとして全長編六作品を読み解く。［四六判／三一五〇円］
ISBN 978-4-86110-255-4

Decoding Paul Muldoon : Poetics and Politics
奥田良二（東海大学教授）　ヒーニーに続く北アイルランドの現代詩人、ポール・マルドゥーン。〈hybridity〉概念を鍵に、その横溢することばの深層に隠された政治性を読み解く（英文）。［四六判／二六二五円］
ISBN 978-4-86110-176-2

虫曼荼羅 ―古典に見る日本人の心象
岩下均（目白大学教授）　古典に登場する「虫」から日本人の心象に迫る。［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-86110-004-6

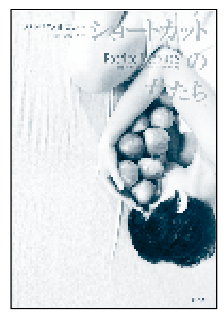
マリー・ダグー ―19世紀フランス伯爵夫人の孤独と熱情
坂本千代（神戸大学教授）　『一八四八年 革命史』、リストとの熱愛で歴史に名を残す女性の生涯。［四六判／二三一〇円］
ISBN 4-86110-042-9

失われたパリを求めて ―マルセル・プルーストが生きた街
アンリ・ラクニモヴ著／吉川佳英子（京都造形芸術大学准教授）・**岩野卓司**（明治大学教授）**訳**　『失われた時を求めて』の醍醐味を、パリの魅力と絡めながら紹介。近代パリの文化や風俗と現代の空気を融合させ、人を惹きつけてやまないパリの魔力を解き明かす。［四六判／二一〇〇円］
ISBN 978-4-86110-236-3

神の箱 ―ダビデとその時代
磯部隆（名古屋大学教授）　「サムエル記」の記述に基づき、古代イスラエルの王とその時代を活写する一大歴史小説。［四六判／三九九〇円］
ISBN 4-86110-036-4

こんにちはチェホフ! ―三つの短編を訪ねる
村手義治（元創価大学教授）**編訳**
恋に陥ちたドン・ファン、スノビズムに埋もれた青年、男の出世社会を蹴散らかす若き人妻…。「犬を連れた奥さん」他二作を解説をまじえながら読みすすむ、新しいスタイルの作品論&翻訳。［四六判／二一〇〇円］
ISBN 978-4-86110-279-0

文学



ショートカットの女たち
パトリス・ルコント著／桑原隆行（福岡大学教授）**訳**　ぼくはトマ、いい奴。今から三年以内に花嫁を探す。条件は、ショートカットであること…。「髪結いの亭主」の名監督が放つ、おかしな婚活小説！［四六判／二一〇〇円］
ISBN 978-4-86110-277-6

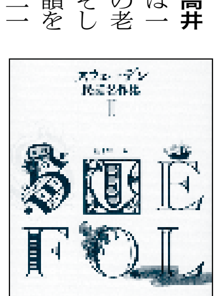
パリの小鳥売り
ロベール・ブラジヤック著／高井道夫（上智大学教授）**訳**　舞台は一九三〇年代のパリ、小鳥売りの老人を交点に、人々は出会い、そして別れる。はかなく切ない余韻を残す幻の傑作。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-250-9

愛の叙事詩　パルダイヤン物語
ミシェル・ゼヴァコ著／鈴木悌男（神戸松蔭女子学院大学名誉教授）**訳**　サルトルが愛してやまなかった冒険活劇！　迫真の筆致で「聖バーテルミーの虐殺」の真相に迫る。［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-223-3

モーツァルトの息子
ジャック・トゥルニエ著／高井道夫（上智大学教授）**訳**　巨大な父の影から逃げ続けた息子は、人妻ヨーゼファと激しい恋におち、自分をとりもどしはじめる。史実に則りつつ〈人間〉モーツァルト父子をあざやかに描きだす小説。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-242-4

白い黒人
ネラ・ラーセン著／植野達郎訳　肌の白い二人の黒人女性。二人は出会い、惹かれあう。黒人女性文学の先駆、待望の邦訳！［四六判／二〇〇〇円］
ISBN 4-86110-093-3

南海物語
ジャック・ロンドン著／深沢広助訳　南の海を舞台にくり広げられる冒険と残酷と滑稽の物語集！［四六判／二七三〇円］
ISBN 4-86110-070-4



スウェーデン民話名作集Ⅰ・Ⅱ
薮下紘一（元駒澤大学教授）**訳**　オーディンからのクリスマスプレゼント、殺めようとした少女と結ばれる王子、あらゆるものを呑みこむ巨人、美しく恐ろしい海の精、時が破滅に追いやった王と王女の愛…。北欧の人と神、魔女、動物が織りなす不思議な物語。［四六判／各巻二〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-246-2
ISBN 978-4-86110-288-2

カレワラ物語 ―フィンランドの国民叙事詩
キルスティ・マキネン著／荒牧和子訳　氷の国フィンランドの国生み神話をやさしい物語に。［四六判／一八九〇円］
ISBN 4-86110-034-8

魔術師のたいこ
レーナ・ラウラヤイネン著／荒牧和子訳　ツォラオアイビのたいこが百年に一度紡ぎ出す、不思議な物語。フィンランド民話を題材にしたファンタジー。［四六判／一五七五円］
ISBN 4-86110-075-5

アイリッシュ・ハープの調べ ―ケルトの神話集
マリー・ヒーニー著／大野光子監修／河合利江・河口和子訳　囚われの姫、邪悪な巨眼の魔王、知恵の鮭、神々の壮大な闘争。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-124-3

ヨコハマ　ヨコスカ　幕末　パリ
飯島耕一（詩人）　生と死、日常と狂気、時空の淵を彷徨う男がいる。単行本未収録作品を含む、「戦後詩の最終ランナー」による傑作集！［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-86110-040-2

日々の風
暮らしのなかの哲学

長谷川宏

5　悲しみの形

去年の十月に妻・摂子が亡くなった。享年六十七。

かねて、葬儀には仏壇もいらない、お経もいらない、と言っていたから、柩と遺影のまわり一面を白い花で埋め、塾の活動や読書会や本の出版などで故人と親交のあった人たちに思い出を語ってもらった。通夜では五人、告別式では四人の、三十代から七十代までの男女から、悲しくも心の静まる話を聞くことができた。わたしは両日、式の最後に喪主としてお礼のことばを述べたのだったが、人びとの思い出話に心安らぎ、穏やかな心境で故人の生涯を振り返り、感謝の気持ちを口にできた。ありがたかった。

妻とわたしは二人とも家で仕事をし、共通の友人が多かったから、葬儀のあとも弔問客が多く、焼香のあと大抵は数十分、思い出話に時を過ごした。故人の思いがけぬ一面ののぞく話もときにあって、胸がどきどきするとともに、人の生きる不思議さとおもしろさを思わないではいられなかった。

二か月あまりで正月だ。例年なら三箇日は何十人もの塾の関係者や知り合いが入れかわり立ちかわりやって来て、賑やかに飲んで食べておしゃべりを楽しむのだが、さて今年はどうしたものか。

喪中の習いとして家族だけでひっそり過ごすことも考えたが、なにかそぐわない。子どもたちの「母さん賑やか好きだったから」ということばに押されて、正月二日にいい話の聞けそうな人に集まってもらい、偲ぶ会ふうの小宴を催すことにした。

集まったのは老若男女二十数人。四十年間つきあい続けてきた古参OBの司会のもと、一人一人が用意してきた秘話や逸話を交えて亡き人への思いを語ってくれた。親しい仲間同士の集まりでも、会が始まってしばらくはさすがにやや固い空気が流れていたのだが、人の話に耳傾け、相槌を打ったり、ことばを差しはさんだり、涙ぐみそうになったり、くすっと笑ったりしているうちに、大きなテーブルを囲んでみんなの坐るその場が、柔らかく温かい雰囲気に包まれていった。一人の思いが次の人の思いへとつながり、話が話を呼ぶ。聞いているだけで、その場に低く響く悲しみの音色に体ごと共鳴するようだった。

少し酒の入った酔心地のなかで、これが共に悲しむということなのだ、とわたしは思っていた。死の悲しみは身近な人ほど深く、死者との距離が遠くなるほど悲しみが薄くなるとこれまで考えていたのだが、どうもそうではないらしい、と。

身近な人にも遠い人にもそれぞれにそれぞれの悲しみがある。その悲しみとともに二か月を過ごしてみんなここにこうして集まり、悲しみをことばにし、また、ことばになった悲しみを聞こうとしている。わたしとて同じことだ。死者を偲ぶとは、それぞれの悲しみの形がたがいに響き合って悲しみの輪を作り、その輪のなかに自分もまたふくまれること、ふくまれようとすることなのだ、と。

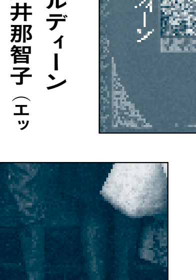
悲しみと明るさは容易に結びつくものではないけれど、いまいう悲しみの輪に包まれていると、悲しい心に薄日が射してくるようだった。共に悲しむという日常の経験のうちに、人間の共同性のゆたかさと奥深さが感じとれるようで、心安まる三時間だった。

悔（くや）み状もたくさんいただいた。そこにもさまざまな悲しみの形があり、読むうちに心が揺らぎ、共鳴した。わたし宛ての手紙には亡妻を指すいくつもの呼び名や形容詞が記されていたが、なかで「最良の話相手を喪われたのですね」という文言には胸を衝かれた。読書会の仲間からの手紙の一文だったが、妻とわたしが論争に及んだときの、目を輝かせてなりゆきを見まもる当人のすがたが脳裡に浮かんだ。最良の話相手は最良の喧嘩相手だったのだと改めて思った。

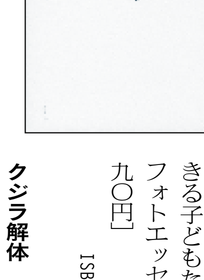
（哲学者）

好評既刊

長谷川宏
「ちいさな哲学」

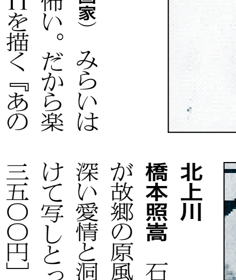


わしといたずらキルディーン
マリー女王著／長井那智子（エッセイスト）**訳**　キルディーンは愛るしいお姫さま。おてんばが過ぎて、国のはずれの高い塔に閉じ込められてしまいました。そこで姫を厳しくしつけるのは、怖くて大きなわしの群れ。「わし姫物語」として愛されてきたすてきな童話が、新訳でよみがえります。［A5判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-153-3



父のふるさと ―秋田往来
三浦衛（春風社代表）　父の目をとおしてたちあがってくる、故郷の風景、ひと、くらし。本文は活版印刷、「身と蓋函」入りの豪華装丁による愛蔵版。序詩・佐々木幹郎氏、寄稿文・田中優子氏。［B6判・函入／二〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-243-1

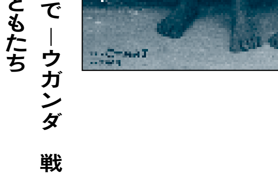
出版は風まかせ ―おとぼけ社長奮闘記
三浦衛（春風社代表）　横浜の出版社「春風社」社長が本づくりと会社経営にまつわるエピソードを豊富におりまぜ、創業から十年を振り返る。［四六判／二三六五円］
ISBN 978-4-86110-193-9



みらいのゆくすえ
しりあがり寿（漫画家）　みらいはみえない、だから怖い。だから楽しい。ポスト3・11を描く『あの日からのマンガ』で話題沸騰の著者が震災後の日本と世界のこれからをゆる～く予想。［四六判／一六八〇円］
ISBN 978-4-86110-294-3

横浜の時を旅する ―ホテルニューグランドの魔法
山崎洋子（作家）　関東大震災からの復興を期して建てられ、マッカーサー、チャップリン、裕次郎、大作家たちが泊まった一流ホテル。ここには、横浜と近代日本の歴史を知るヒントがたくさん隠されている。横浜を愛するミステリー作家が、その魅力と楽しみ方を余すところなく教えます。［四六判／一六八〇円］
ISBN 978-4-86110-296-7

写真◎音楽◎芸術



かぼちゃの下で ―ウガンダ　戦争を生きる子どもたち
桜木奈央子（写真家）**写真・文／伊藤氏貴**（明治大学専任講師）**解説**　「国民同士、民族同士の同士討ち」により数十万人単位の死者を出したウガンダ。悲惨な過去を抱えながら、日常をたくましく元気に生きる子どもたちの姿を映し出すフォトエッセイ。［四六判／一八九〇円］
ISBN 4-86110-259-2

クジラ解体
小関与四郎　和田浦・九十九里浜（千葉）、太地（和歌山）、鮎川（宮城）で二十四年にわたって撮影。クジラと共に生きる人々と暮らしを映す。モノクロ写真一二一点。［A4判／一五七五〇円］
ISBN 978-4-86110-261-5

九十九里浜
小関与四郎　九十九里で生まれ育った著者が半世紀にわたり撮りつづけた写真二〇八点。昭和三〇～四〇年代を中心に、日本の原風景が甦る。［A4判／一五七五〇円］
ISBN 4-86110-012-7

北上川
橋本照嵩　石巻出身のカメラマンが故郷の原風景と人々の暮らしを深い愛情と洞察力をもち半世紀かけて写しとった。［B5変型判／三五〇〇円］
ISBN 4-86110-055-0

ベイビーリズム
せきあき子（画家・詩人）　世界と私を見つめることから生まれたかろやかな詩画集。［四六判／一二六〇円］
ISBN 978-4-86110-238-7

OTHER VOICES　東大全共闘・68―70
平沢豊（編集者）　当時東大生だった著者がつぶさに目撃した東大全共闘。［変型判／二九四〇円］
ISBN 4-86110-026-7

ガリヴァー旅行記　蔵書票集
松菱多津男（会社会長）**編**　紙の宝石ともいわれる蔵書票二〇枚を美麗帙函に収める豪華愛蔵版！［B5判帙函入り／二五〇〇〇円（直販のみ）］

邦訳「ガリヴァー旅行記」書誌目録
松菱多津男（会社会長）　明治一三年刊行の初邦訳本から平成二二年刊行物まで、書籍、漫画、紙芝居、LPレコード、カセットテープ、ビデオテープ、DVDなど五〇〇点以上を網羅。出版形態の変遷がわかるカラー口絵八頁。人名索引付き。［B5判／四八三〇円］
ISBN 978-4-86110-276-9

ただしいジャズ入門
中条省平（学習院大学教授）　二〇〇枚以上のディスクレビューから見えてくるジャズ百年史。［四六判／一六八〇円］
ISBN 4-86110-057-7

たのしいジャズ入門
寺島靖国（ジャズ喫茶「メグ」店主）　ピアノトリオからラテン、マニア垂涎の逸品まで。［四六判／一六八〇円］
ISBN 4-86110-056-9

ハラに染みるぜ！天才ジャズ本
安原顯（スーパーエディター）　名作は大絶賛、駄作はぶっ叩く！［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-921146-62-4

ドイツ・ロックの世界
若山俊介（宇都宮大学教授）　ロックマニア必読。歌詞を通してドイツの歴史と社会もよくわかる。［四六判／一八九〇円］
ISBN 4-86110-074-7

アフリカン・ポップスの誘惑
多摩アフリカセンター編　アフリカ各国のヒット曲を紹介、歌詞を味読する。［A5判／一六八〇円］
ISBN 978-4-86110-108-3

深読み映画論 ―『暗い日曜日』の記憶
大野真（大妻女子大学教授）　映画の醍醐味、それはディテールを味わい尽くすことにある。五つの作品をこれまでにない視角から読み解く濃密な作品論！［四六判／二〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-198-4

ドアの映画史 ―細部からの見方、技法のリテラシー
吉田眸（京都産業大学教授）　さりげない細部の演出や技法に、映画を読み解く鍵がある。ストーリー中心主義を超え、映画の魔法に迫る。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-264-6

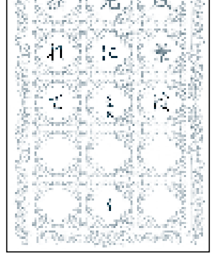
インド・まるごと多聞典
矢萩多聞（画家・装丁家）　注目の画家・装丁家、初の対談集。谷川俊太郎氏推薦！［A5判／二五〇〇円］
ISBN 4-921146-24-1

健康

気功瞑想でホッとする
朱剛（禅密気功師）　日々の暮らしに瞑想を取り入れたいと思っている人、ながく瞑想を続けたいと考えている人に最適。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-189-2

背骨ゆらゆら健康法 ―自分でできるお手軽気功術
朱剛（禅密気功師）　ストレス社会をはつらつと元気に生きるために気功体操を始めませんか。コツは背骨を揺らすこと！［A5判／一二六〇円］
ISBN 978-4-86110-127-4

詩歌◎俳句



風景は光に揺れて
土屋千鶴（専門学校講師）　見たもの感じたものを言葉に移しかえる次元を超え、新たな世界を言葉によって構築しようとする意欲的作品群。［四六判／一五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-293-6

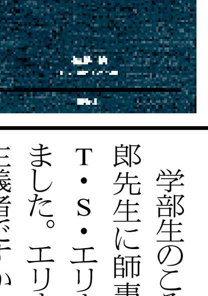
詩集　貘のマラソン
いとうのぼる　生のときが澄み、したたる言葉が詩となる。ゆたかなときへ誘う詩群。［四六判／一三六五円］
ISBN 978-4-86110-270-7

谷川健一全歌集
谷川健一（民俗学者・歌人）　既刊の三歌集に加え、未発表作を多数収録。独自の歌風で詠われる〝見えざるもの〟への祈り。民俗学者・歌人の歌業を集成。［A5変型判／三九九〇円］
ISBN 978-4-86110-104-5

山桜花
廣利千恵子　「満ち溢るる桜の光をむさぼりぬ再びの春切に願いて」。障害児教育に身を挺した著者の遺作。［四六判／一五〇〇円］
ISBN 4-86110-077-1

総記◎辞典事典

現代日本語モンゴル語辞典
橋本勝（大阪大学教授）**／E・プレブジャブ**（モンゴル国立科学アカデミー言語文学研究所研究員）　日蒙辞典最大の語彙数、見出し語一万八五〇〇！［A5判／一五七五〇円］
ISBN 4-921146-33-0



ダンテ神曲原典読解語源辞典〈地獄〉〈煉獄〉〈天国〉
福島治（東京女子大学教授）　原典と英訳を全文併記。「神曲」読解に必要なすべてがここに！大江健三郎氏・中条省平氏・柳瀬尚紀氏推薦。（本文英文）［B5判／各四八三〇〇円］
ISBN 4-921146-77-2
4-921146-78-0
4-921146-79-9

日本の英語辞書と編纂者
愛知大学文學會叢書XI
早川勇（愛知大学教授）　幕末から戦後までの辞書刊行状況を網羅した年表と、辞書編纂に関わった人々の経歴。英語史研究者、必携！［B5判／六九三〇円］
ISBN 4-86110-064-X

ニュージーランド百科事典
ニュージーランド学会編　あらゆる情報を網羅する初の本格的事典。正確な知識にもとづく二千項目。年表、人口推移表、行政区域図、姉妹都市一覧など資料も充実。英語索引付き。［A5判／九八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-111-3

立教大学人文叢書

石碑、直筆原稿、楽譜、絵画、写真、書簡など、あらゆる媒体をテクストとしながら、さまざまな時代や地域における人間精神の多彩な働きを考究する横断的人文学の試み。全五巻！［四六判］

●書簡を読む　桑瀬章二郎編　［二二〇〇円］
ISBN 978-4-86110-194-6

●人文資料学の現在Ⅱ　菅谷憲興編　［二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-163-2

●肖像と個性　藤巻明・浦野聡・小嶋菜温子編著　［二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-138-0

●文学の基礎レッスン　後藤和彦編著　［二三一〇円］
ISBN 4-86110-087-9

●人文資料学の現在Ⅰ　浦野聡・深津行徳編著　［二三一〇円］
ISBN 4-86110-063-1

◎関連書籍
古代文字史料の中心性と周縁性
立教大学東アジア地域環境問題研究所／深津行徳・浦野聡編著　地方の遺存記録史料が中央の歴史を逆照射する。英韓日の研究者一二人による論集。［A5判／三六七五円］
ISBN 4-86110-067-4

自著を語る

「地名は歴史と風土を映しだす鏡です」

学部生のころは西脇順三郎先生に師事し、卒論はT・S・エリオットで書きました。エリオットは古典主義者ですから、私も古典をもっと学ばなければならないと思い、シェイクスピアもよく読んでいました。大学院ではさらにさかのぼってチョーサー、そして古英語詩とルーン文字の研究に取り組みました。地名の研究もその延長線上にあるもので、今回の本は学生時代に趣味で訳していたものがもとになっています。

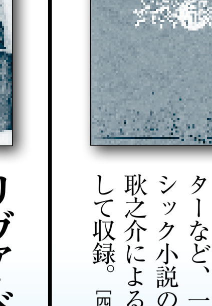
イングランドの地名は、ケルト、アングロ・サクソン、スカンジナビア、フランスなど、いろいろな民族や地域に由来しています。だからその語源をさぐる作業は複雑な迷路のようにややこしいのですが、だからこそとても興味深い。

原著者のケネス・キャメロンが事細かに描き出しているように、地名をいくつかの要素に分解したり、意味内容の存続や変遷を追うことで、イングランドの歴史や風土の移り変わりが垣間見えてきます。もちろんその作業には古英語の知識も必要です。

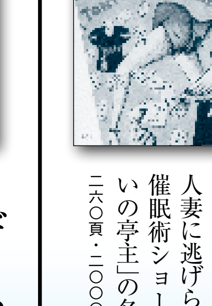
古英語は日本の大学の英文科でも必修科目ではなくなりました。イギリスでも敬遠される傾向にあり、ケンブリッジ大学でもそういう動きがあるらしい。残念なことです。実用性という点からみれば役に立つ場面が少ないことはたしかです。けれども、古英語という貴重な遺産の探究は、英文学、ひいては西洋文学を深く理解するためには欠かせないものだと思います。

（談）

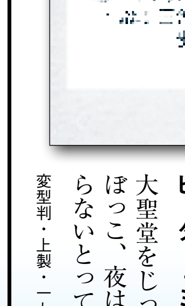
イングランドの地名
――起源と歴史を訪ねて
ケネス・キャメロン著
吉見昭德（明治学院大学名誉教授）訳
さまざまな民族や地域に由来する地名を分析することで見えてくる、イングランドの歴史・自然・風土。
A5変型判・上製・380頁／4500円
ISBN 978-4-86110-290-5



クリス・ボルディック選　ゴシック短編小説集
石塚則子（同志社大学教授）**ほか編訳**　レ・ファニュやカーターなど、一八世紀から二〇世紀までの三三編を訳出。ゴシック小説の系譜を一望できる最良のアンソロジー。日夏耿之介による抄訳「アッシャア屋形崩るるの記」を付録として収録。［四六判・上製・五六八頁・三六七五円］
ISBN 978-4-86110-298-1

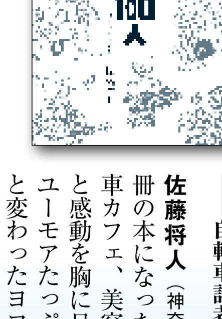


リヴァ・ベラ
パトリス・ルコント著／桑原隆行（福岡大学教授）**訳**　美人妻に逃げられ、ショーは大失敗。どん底のマジシャンは、催眠術ショーで起死回生を狙う…。エッチで滑稽、「髪結いの亭主」の名監督による誘惑に満ちた小説。［四六変型判・上製・二六〇頁・二〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-280-6



イギリスの田舎を歩く
ピーター・ミルワード著／橋本修一（千葉工業大学准教授）**訳**　大聖堂をじっくり見学し、のどかな風景のなかでひなたぼっこ、夜はおいしいパブ料理に舌鼓を打つ。観光客の知らないとっておきのイギリスを紹介。挿画は牛尾篤。［四六変型判・上製・一七〇頁・一五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-311-7

空にあがったハイエナ ――ケニア・キクユの民話集
杜由木（もりゆき）　単純で臆病だけど愉快なハイエナ、女子どもを呑みこむ森の人喰鬼（イリモ）、固い絆で結ばれた人々…。キクユ族が語り継いできた大切な物語をユーモラスなイラストとともにおくる。［四六判・並製・二五六頁・一六八〇円］
ISBN 978-4-86110-301-8



突撃！よこはま村の100人 ――自転車記者が行く
佐藤将人（神奈川新聞記者）　神奈川新聞連載のコラムが一冊の本になった。駄菓子屋、船具店、模型店、銭湯、自転車カフェ、美容師ライダー、昆虫先生などなど、笑いと涙と感動を胸に日々奮闘する横浜の面々を自転車の目線からユーモアたっぷりに、イラスト満載でお届けします。ちょっと変わったヨコハマ散策を楽しんでみませんか。［四六判・並製・二一六頁・一五七五円］
ISBN 978-4-86110-316-2

ポストモダンの処方箋

9 敗戦処理をめぐって

白井聡

東日本大震災および福島第一原発事故からおよそ一年が過ぎた。一年前の今頃のことを想うと、今現在は相対的に平安な気持ちでいる自分に気づかされる。しかしながら、それでもやはり、原発事故の始末・震災復興をめぐる困難、そしてこれらの問題をより一層の混迷へと追い込むことになるであろう世界的な経済危機（日本にも忍び寄るソブリン危機を含む）といった問題を鑑みるに、あの日以来終わらない悪夢を見続けている、という感触を拭い去ることができない。さらには、これらに加えて、大都市での大地震の脅威までもが迫りつつあるという……。

この一年の間、デモは日常の風景となり、SNSサイトを開けば、そこは変革を求めるさまざまな声によって埋め尽くされている。とはいうものの、こうした変化への胎動は現実の一断面にすぎない。私は今むしろ、変化の不在に驚きあきれている。大地震と原発震災の直後、首都圏が大規模な計画停電に見舞われるなかで、日常の光景は確実に変化していた。街は至るところで節電のために薄暗くなり、紙の供給難から鉄道車両内の広告は激減した。こうした光景に私は清々しさを覚えた。図らずも震災は、われわれが日頃どれほど不要なものに囲まれているのか、そして不要なものたちがわれわれの生活空間をどれほど醜いものとしているのかを示してくれたのであった。しかるに今日、街の灯りは三・一一以前の照度を取り戻し、列車の内部は再び種々の広告で埋め尽くされている。こうした日常生活の光景は、この期に及んでも本気の脱原発、本気の脱成長のヴィジョンを描くことができない、その気もない政治の在り方と、完全に対をなしている。そして、政治よりも一層厄介なことには、こうした光景をつくり出している主体は特定不可能だということである。

経済学者の水野和夫氏は、一九七〇年代以降の世界、すなわち資本主義のポスト・フォーディズム段階を、近代的発展が袋小路に入り、にもかかわらず従来の成長の形態を不合理な方法によって維持しようとしてきた時代としてとらえている。度重なるバブル経済の創出（およびその崩壊）と原子力発電は、こうした不合理な方法の一端なのである。そして、二〇〇八年のリーマン・ショック以来の経済危機、それに三・一一福島原発事故は、無理矢理に継続されてきた近代の「自己敗北」である（『終わりなき危機　君はグローバリゼーションの真実を見たか』）。幸か不幸か、日本国民は世界のどの先進国にも先駆けてゼロ成長経済に到達し、また今日では科学万能主義の虚構と惨禍に直面している。いまや近代性そのものが敗北しつつあるのだとすれば、近代において稀に見る活発な発展を実現した国民もまた敗北を喫せざるを得ないことは自明である。

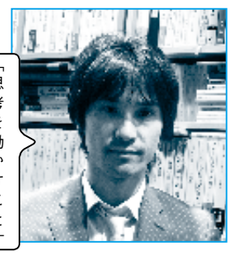
だが、そうであるとすれば、われわれがいま目にしている変化の不在は、一体何であるのか。近代以降、日本人は、敗北を認めないということにおいて天才的才能を発揮してきた。「不敗神話」はなにも旧日本軍の専売特許ではなく、国民的神話にほかならない。その証拠に、あの八月一五日は、「負けた日」ではなく「終わった日」である。あたかも天災であるかのごとくに敗戦は表象されてきた。言うまでもなく、こうした認識が可能となったのは、高度経済成長という成功体験によってであるとともに、その背景をなした冷戦構造、ならびに第一次大戦後のドイツの処遇を苛酷なものとしすぎた結果ナチズムの台頭を招いた戦勝国の反省、といった外的要因によってである。だが、こうした事柄が意識される機会はあまりに少ない。要するに、「負けた」という事実を有耶無耶にすることができる諸状況を背景として、戦後日本国民のナショナル・アイデンティティは形づくられてきた。付け加えるならば、日本の対東アジア諸国と対露関係における摩擦・緊張の多くの部分が、戦後日本人の意識に根づいてしまった「不敗神話」によってもたらされている。

都市という都市が焼き払われても「負けた」ことを自覚できなかった国民が、果たして現在の敗北を認識できるのであろうか。現に、八・一五の痛みをほとんど一身に背負わされてきた沖縄の声を、われわれは無視し続けてきたし、いまもそれを続けている。しかし、もう誤魔化しは通用しない。近代性そのものが破産しつつあるいま、敗北を近代的発展によって贖うことはできない。現在無残な姿をさらしている福島第一原発の建屋は、覚醒と再生への礎となるか、さもなければ、今度こそ認めざるを得ない敗北と破滅への記念碑としてそびえ立つことになるだろう。

（政治学者）

この研究室が面白い！ 9

東洋大学 稲垣諭研究室


「思考を動かすこと」が哲学を面白くします

クモなんかをじっと観察していると面白いんです。壁を登っていくんだけど、クモは垂直なんて思わず、壁を床の延長と認識しているかもしれない。すると、クモはぼくらにとっての「天地」とは違う世界を生きていることになる。

ぼくは趣味でフリークライミングをやっていますが、トレーニングを積むと、からだの動かし方、筋肉の使い方が変わり、感覚も変容していく。新しい世界の捉え方、活用の仕方が開かれてくる。

最近出した『リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション』は、いわば「五体不満足」の人間にとって世界はどう開かれていくかについて、現象学とリハビリの臨床的知見の両方を使って見ていきます。それは、経験の学という側面が強いリハビリに理論的な支柱を与える試みであり、同時に、硬直しがちな哲学を、現実とぶつけることでしなやかさを加え、展開可能性をもたらす作業でもあります。ちょっと長いタイトルは、そういう相互作用を言っています。

思考と経験を動かすというか、現実とぶつかり合って考え続けるには、比喩ではなくトレーニングが必要なんです。そういうことが、哲学のテクスト解釈だけに閉じこもっているとできなくなってしまう。テクストを読むことは前提ですが、その先に行きたいんです。

たとえば、光が、もし時速30センチメートルだったとしら、光は、視覚世界はどう見えるでしょうか。そんな思考実験を行うことで、現実を構成している条件を揺るがしたいと、秘かに思っています。

（インタビュー　内）

稲垣諭『リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション』

政治◎経済

近代政治思想の基礎 ―ルネッサンス、宗教改革の時代
クエンティン・スキナー著／門間都喜郎（京都精華大学名誉教授）**訳**
膨大な文献の読解によって、近代に至る西洋政治思想の形成と展開をつむぎだす。名著、待望の翻訳！［A5判／七九八〇円］
ISBN 978-4-86110-181-6

世界金融危機 日中の対話 ―円・人民元・アジア通貨金融協力
上川孝夫（横浜国立大学教授）**・李暁**（吉林大学教授）**編**　国際通貨体制と国際金融の改革をめぐる議論を整理し、アジア通貨金融協力の現状と今後を展望する。日中共同企画！［四六判／三六七五円］
ISBN 978-4-86110-203-5

フランス帝国主義と中国 ―第一次世界大戦前の中国におけるフランスの外交・金融・商工業
篠永宣孝（大東文化大学教授）　第一次史料から利権争奪の交渉過程と結果を跡づける。［A5判／六〇〇円］
ISBN 978-4-86110-136-6

生命の経済学 ―生物学による経済学再構築
富森虔児（北海道大学名誉教授／桜美林大学名誉教授）　生物学にインパクトを受けた概念により既存経済学を見直す。［四六判／二五〇円］
ISBN 978-4-86110-161-8

戦争の読みかた ―グローバル・テロと帝国の時代に
加藤朗（桜美林大学院教授）　ネグリとハート、カルドーらの議論を整理、変貌する紛争の系譜を辿る。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-144-1

「新自由主義」をぶっ壊す
青木育志（アナリスト）　「新自由主義」を政策と思想の両面から徹底批判。格差を肯定する「新自由主義」から、平等に配慮した「自由主義」への道を示す。［四六判／一六八〇円］
ISBN 978-4-86110-226-4

日本をマネジメントする
岸岡駿一郎（企業家）　アメリカ在住四〇年の著者が、日本の未来を経営の視点から洞察。［四六判／一八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-197-7

野麦峠に立つ経済学 ―あなたの本気が世界を変える
島岡光一（埼玉大学名誉教授）**編著**
「個」に目を向ける感性の経済学へ。［四六判／二六二五円］
ISBN 4-921146-72-1

経済をデザインする
島岡光一（埼玉大学名誉教授）**編著**
南インドで体験したコミュニティの団結力に経済の原点を見る！［四六判／二五〇〇円］
ISBN 4-86110-088-7

伊藤昌哉　政論
小枝義人（千葉科学大学教授／拓殖大学客員教授）
政治評論家の幻の政局分析に、詳細な解説を付す。［四六判／一七八五円］
ISBN 4-86110-085-2

党人　河野一郎 ―最後の十年
河野洋平（前衆議院議長）**監修／小枝義人**（千葉科学大学教授／拓殖大学客員教授）**著**　豪腕政治家の波乱に満ちた晩年と魅力あふれる言動を追う。［四六判／一八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-212-7

古代オリエント世界像からの脱出 ―ピラミッド・テキストから原始キリスト教までの神話・宗教・政治
磯部隆（名古屋大学教授）　メソポタミア文明、出エジプト、古代ユダヤ教、第二イザヤを接続し、思想・表現の類似性と差異性をとらえる。［四六判／四五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-137-3

観光

日本初の海外観光旅行 ―九六日間世界一周
小林健（明海大学教授）　いきづまりをみせる観光ビジネスへのヒントがここにある！［A5判／三三六〇円］
ISBN 978-4-86110-178-6

観光地の賞味期限 ―「暮らしと観光」の文化論
古池嘉和（富山大学教授）　内発的・持続的な観光地づくりへの提言！［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-120-5

にぎわい文化と地域ビジネス
相原憲一（静岡大学教授）**編**　先進的事例を分析。［A5判／一八九〇円］
ISBN 4-86110-021-6

ガイドブック的！　観光社会学の歩き方
遠藤英樹（奈良県立大学教授）　「擬似イベント」「シミュラークル」「風景の政治学」など社会学の知見を援用して一〇の観光地をツアー。［四六判／二一〇〇円］
ISBN 978-4-86110-126-7

旅ともてなしの文化論
京都府立大学 旅ともてなしの比較文化研究会編　古今東西の事例を通して、今日の観光業を見つめる。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-146-5

おばさんベトナム留学記
中嶋弘子　おばさんは一人ベトナムに旅立った!!　ハノイ師範大学、小学校、バイクの後ろに乗って、ベトナム人との共同生活等々、〝おばさん〟がベトナムで見たものは？　旅はいつしか同行二人となっていく…［四六判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-297-4

おばさん！辺境を行く
外川洋子　六五歳を過ぎて海外旅行の魅力にとりつかれ各国を旅行。［四六判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-100-7

おばあちゃん！世界遺産を行く
外川洋子　元気なおばあちゃんの世界旅行はつづく。［四六判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-249-3

言語

英語のルーツ
唐澤一友（駒澤大学教授）　「Anne のニックネームがなんで Nancy ?」「every day は名詞が並んでいるのになぜ副詞扱い?」英語の歴史的な発展をたどり、他の言語と比較することで、英語の「なぜ」がよく分かる！［四六判／二一〇〇円］
ISBN 978-4-86110-283-7

言いさし発話の解釈理論 ―「会話目的達成スキーマ」による展開
荻原稚佳子（明海大学専任講師）　グライスなどの先行研究を批判的に継承しつつ、人間が普遍的にもつ「会話目的達成スキーマ」を探究。［A5判／四六〇〇円］
ISBN 978-4-86110-160-1

Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition
伊庭緑（甲南大学准教授）　日本人はどうすれば自然な英語を話せるのか？　トレーニング方法の実験調査から、単語の発音練習に先立つプロソディの訓練が有効なことを解明する。（英文）［A5判／四八三〇円］
ISBN 978-4-86110-235-6

第二言語学習と個別性 ―ことばを学ぶ一人ひとりを理解する
津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ編　出身国、年齢、ニーズ、目的が違うなど外国語習得にまつわる多様性への対応法を探る。［A5判／一六八〇円］
ISBN 4-86110-065-8

ウェブスター辞書と明治の知識人
早川勇（愛知大学教授）　日本におけるウェブスター辞書の需要を跡づける。福沢、内村ら文化人に多大な影響を与えたウェブスター辞書！［A5判／三九九〇円］
ISBN 978-4-86110-128-1

英単語のいのち
早川勇（愛知大学教授）　「アダムのリンゴ」って体のどこのこと?　英単語の意味や語源を探る面白エッセイ。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-217-2

英語になった日本語
早川勇（愛知大学教授）　mebos という単語がOEDにある。語源的にアフリカーンス語とされる mebos と梅干の関係は？　ためになる英語トリビア！［四六判／一六八〇円］
ISBN 978-4-86110-089-5

言語テストの作成と評価 ―あたらしい外国語教育のために
オルダーソン、クラッファム、ウォール著／渡部良典（上智大学教授）**編訳**　コンピューター処理などの技術的側面だけでなく、それを利用する人間の側面も重視することで、テスト開発の方法を批判的に検討する。［A5判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-201-1

ブラジル人のためのニッポンの裏技 ―暮らしに役立つ日本語便利帳
松田真希子著／ティアゴ・サレス・ビント訳　日本で快適に過ごすための知恵や情報がいっぱい。工場など職場で使う用語も満載。［四六判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-129-8

プラグマティクス・ワークショップ ―身のまわりの言葉を語用論的に見る
田中典子（清泉女子大学教授）　言葉はどのように理解（誤解）されるのか。語用論をわかりやすく教える教科書。［B5変型判／一八九〇円］
ISBN 4-86110-073-9

The Pragmatics of Uncertainty
田中典子（清泉女子大学教授）　語用論の視点から見る会話の「曖昧さ」（英文）。［A5判／五六〇〇円］
ISBN 4-921146-22-5

L'interaction Exolingue: Analyse de Phénomènes Métalinguistiques
石川文也（立教大学教授）　フランス語を学習する日本人が言語を習得する際、どのようにメタ言語がかかわるのか（仏文）。［A5判／八九〇〇円］
ISBN 4-921146-59-4

La transmission des savoirs: une analyse dynamique du discours
石川文也（立教大学教授）　ことばによる「知」と情報の伝達プロセスを解明・考察。フランス人と日本人とのフランス語を使用した日常会話、行政が情報伝達のために使用することば、テレビCMを構成することばと映像など分析する。［A5判／五八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-302-5

Languages and Language Policies In Insular Southeast Asia
河原俊昭（京都光華女子大学教授）　多言語社会・東南アジアでの言語政策を問う（英文）。［A5判／六二四八円］
ISBN 4-921146-64-0

Indigenous Languages Revitalized?
松原好次（電気通信大学教授）　英語支配によって衰退した少数派言語復権の途を探る（英文）。［A5判／五八〇〇円］
ISBN 4-921146-15-2

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis: Evolution, UG Residues, and Helen Keller
鈴木憲夫（神戸親和女子大学教授）　ヘレン・ケラーの例などを参照しながら、〈強い極小主義的テーゼ〉を探る（英文）。［A5判／八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-114-4

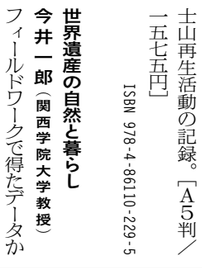
Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis II: What UG Should be Like in the Context of Plato's and Darwin's Problems
鈴木憲夫（神戸親和女子大学教授）　幼児の第一言語習得に関わる「プラトンの問題」と、言語進化に関わる「ダーウィンの問題」を考察し、人間の言語に迫る（英文）。［A5判／七〇〇円］
ISBN 978-4-86110-300-1

技術◎工学

日越工学用語辞典
長岡技術科学大学工学辞典編纂委員会　見出し語約二万語。項目構成は日・越・英・カテゴリー。越語、英語から日本語を探せる索引。元素周期表、単位記号一覧表付。［A5判／二八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-149-6

ラルテ・ヴェトラリア ―17世紀初頭のガラス製造術
アントニオ・ネリ著／日本ガラス工芸学会編　一六二二年出版された最古のガラス製法書を訳出。図版多数。［A5判／五二五〇円］
ISBN 978-4-86110-131-1

環境



三島のジャンボさん ―ミスター・グラウンドワーク
渡辺豊博（都留文科大学教授）　バイオトイレなど先進的な取り組みで知られる静岡の NPO「グラウンドワーク三島」事務局長の型破りな半生。三島出身の女優・冨士眞奈美さんとの対談を併録。［四六判／一五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-233-2

英国発グラウンドワーク ―「新しい公共」を実現するために
渡辺豊博（都留文科大学教授）**・松下重雄**（金沢大学准教授）　議論よりもまずアクション。グラウンドワーク三島による先進的・創造的な地域再生のノウハウが満載。［A5判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-232-5

富士山学への招待 ―NPOが富士山と地域を救う
渡辺豊博（都留文科大学教授）　バイオトイレ設置など、ユニークな富士山再生活動の記録。［A5判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-229-5

世界遺産の自然と暮らし
今井一郎（関西学院大学教授）　フィールドワークで得たデータから「世界遺産」の実態に迫る！［A5判／二〇〇〇円］
ISBN 4-921146-98-5

生き物

海中快晴
大門直樹　ページを繰れば、そこは目も綾なるサカナたちの世界。西伊豆や南西諸島などで撮影した約一五〇枚を収録。［A5判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-090-1

コバタンの繁殖 ―絶滅危惧種保存への挑戦
石川文也（日本鳥学会会員）　種の保存のための方策、そして問題点とは何か？　これまで明かされてこなかった白色オウム・コバタンの繁殖の様子を詳細に記す。［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-195-3

増殖するシャーマン ―モンゴル・ブリヤートのシャーマニズムとエスニシティ
島村一平（滋賀県立大学専任講師）　モンゴル・ブリヤートの間で、人口の一パーセントに達するほどの猛烈な勢いでシャーマンが増え続けているのはなぜか。フィールド調査を重ねる中で明かされる、悲劇の歴史とエスニシティ。［A5判・上製・五八〇頁・七八七五円］
ISBN 978-4-86110-299-8

ブルシェンシャフト成立史 ―ドイツ「学生結社」の歴史と意義
菅野瑞治也（京都外国語大学教授）　ドイツの学生結社OB会員である著者が、貴重な文献・内部資料に基づき、謎めいた集団の実際を詳述。生涯を通じた友情、〝本物の〟決闘、独特のしきたりと儀式、フリーメーソンとの敵対関係など、何百年と続く共同体の魔力に迫る。［四六判・上製・三六四頁・四四一〇円］
ISBN 978-4-86110-304-9

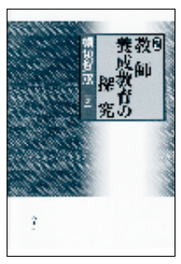
ラフカディオ・ハーンとジェイムズ・トムソン ―『四季』をめぐって
先川暢郎（拓殖大学教授）　ハーンによるトムソンの『四季』に対する評価を考察しつつ、イギリス近代自然詩の源流としてのトムソンを再評価し、両者に共通するケルト性をあきらかにする。［四六判・上製・二六六頁・三五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-285-1

フェイス相互作用理論 ―日本語学習クラスにおける相互作用からフェイスワークをとらえる
横溝環（東洋英和女学院大学ほか非常勤講師）　人はいかにして自己像を獲得あるいは回避するのか。解釈主義的アプローチを用いつつ、シンボリック作用論の視点から日本語学習者間の事例を通して検証する。［A5判・上製・三八〇頁・四九〇〇円］
ISBN 978-4-86110-286-8

教育

言語教育とアイデンティティ ―ことばの学びの連携と再編
細川英雄（早稲田大学大学院教授）**編**
日本語・国語・外国語の教育をどのように連携・再生させればよいのか。言語教育そのものが人間形成につながるという視点に立ち、ことばの学習／教育の社会的・文化的意味を問う。［A5判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-289-9

日本における外国人留学生と留学生教育
鈴木洋子（武蔵野大学・大学院教授）
詳細なデータ・アンケート・インタビュー調査をもとに、外国人留学生の実態や教育の変遷をたどり、現況を分析。実際的な今後のあり方を提言する。関係年表付き。［A5判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-268-4



新版 教師養成教育の探究
横須賀薫（十文字学園女子大学学長）
なぜ教師は養成されなければならないか？ いかに養成されるべきか？ 教師養成教育の名著、待望の復刊。［四六判／二三二〇円］
ISBN 978-4-86110-245-5

実感から関係化へ ―ある重度重複障害者と関わって
遠藤司（駒澤大学教授）重度重複障害の子のもつ人間としての素晴らしさ、豊かさ、思考の深さ、二五年間の関わりから見えてきたこと。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-237-0

新版 生涯学習と地域社会教育
末本誠（神戸大学大学院教授）／**松田武雄**（名古屋大学大学院教授）**編** 生涯学習の歴史と現状を詳細に分析、新しい理念と方向性を提起。法制度や現場環境の変動に対応して大幅改訂。［A5判／二六〇〇円］
ISBN 978-4-86110-234-9

言語教育と アイデンティティ

教育の経済 ―成り立ちと課題
三上和夫（神戸大学教授）公的補助の不備、家庭の経済格差から生じる学歴格差等の問題を示し、教育政策について再考を促す！［A5判／三三六〇円］
ISBN 4-8-6110-049-6

ヨーロッパの教育現場から ―イギリス・フランス・ドイツの義務教育事情
下條美智彦（国士舘大学客員教授）
授業崩壊からの再生（英）、学校週四日制（仏）、教科書を使わない私立校（独）等を行政の立場から詳述。［四六判／二二〇〇円］
ISBN 4-921146-73-X

石貨の島へ ―ヤップの教育今昔
田中忠（川崎市立坂戸小学校教諭）
「勇気とロマンの島」に憧れながら教育の本質を模索する小学校教師による南の島探訪記。［四六判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-265-3

沈まざる未来を ―人間と教育の論に歌と詩と句「冬雲」を加えて
上田薫（教育哲学者）教育の世界に身を投じ、新しい地平をひらこうとしてきた著者「最後の」著書。〝上田教育学〟の真髄を伝える。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-147-2

竹内レッスン ―ライブ・アット大阪
竹内敏晴（演出家）あなたの息づかいはゆったりしていますか？「からだ」がまるごといきいきするユニークなワークショップ。［四六判／二七三〇円］
ISBN 4-86110-076-3

増補「いい子」の非行 ―家裁の非行臨床から
佐々木光郎（静岡英和学院大学教授）
家裁調査官の立場から「いい子」による非行問題を再提言。［四六判／一八九〇円］
ISBN 4-921146-91-8

戦前感化・教護実践史
佐々木光郎（静岡英和学院大学教授）／**藤原正範**（鈴鹿医療科学大学准教授）
「学校外の学校」で、子供史から除外された子供たちを導いた稀有の教育実践。［四六判／五〇四〇円］
ISBN 4-921146-18-7

教育亡国を越えて
小野四平（奥羽大学教授）教育改革に身を挺し、全国行脚をおこなった林竹二への渾身の回答。［四六判／二三一〇円］
ISBN 4-921146-39-X

教師再生 ―石川県公立中学校における授業実践から
砂上昌一（全国同和教育研究協議会役員）**編著** 林竹二にならい、教師たちが〈再生〉をかけ、授業を吟味し苦闘した記録。［四六判／二〇〇〇円］
ISBN 4-86110-041-0

学校身体の管理技術 ―規律訓練から環境管理へ
中井孝章（大阪市立大学大学院教授）
規律訓練から常時監視の管理へと教育モデルは変遷してきたが、そこに問題点はないのか。［四六判／二六二五円］
ISBN 978-4-86110-151-9

学びを開く NIE ―新聞を使ってどう教えるか
影山清四郎（東京福祉大学教授）**編著**
日本における実践報告集。［A5判／二五〇〇円］
ISBN 4-86110-080-1

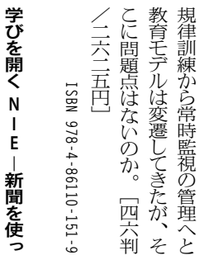
学校教育紛争 ―事件の概要・判決・争点
坂田仰（日本女子大学准教授）いじめ、自殺、教員間セクハラなど、裁判所に持ち込まれた教育紛争事例を分析。［四六判／二〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-101-4

野外自然体験学習と理科教育 ―よりよい指導のために
宮下治（関東学院大学准教授）指導計画、開発教材、授業実践記録、豊富な実例をもとに具体的な指導法を紹介。［B5判／三二五〇円］
ISBN 978-4-86110-169-4

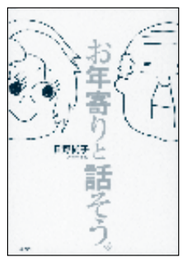
幼児キャンプ ―雪の体験
山梨幼児野外教育研究会監修 指導二〇年の経験から「使える」野外教育の活動・指導事例を集成。［B5判／各二〇〇〇円］
ISBN 4-921146-40-3

母の愛が奇跡を生む ―発達の遅れに挑むラーニング・ボックス学習法
立川勲（よこはま児童文化研究所顧問）**編** 藁をもつかむ思いで探し回り、遂にたどりついた画期的な自学自習の学習法。［四六判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-098-7

作法学の誕生
山根一郎（椙山女学園大学准教授）
失われ、形骸化した作法の本来の意味を記号論により分析・批判する。［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-921146-97-7



お年寄りと話そう
日野純子（立教大学准教授）お年寄りとのコミュニケーションに悩む人のために、簡単だけど大切な、聞きかた話しかたの二〇のコツを伝授。［四六判／一六八〇円］
ISBN 978-4-86110-168-7



先生、いのちのことを教えて ―引き揚げから養護教諭へ
引地ユリ 独自の方法論で性教育を行ってきた擁護教諭の壮絶な半生。［新書変型判／一〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-269-1

ポストモダンの自由管理教育 ―スキゾ・キッズからマルチ・キッズへ
柳沼良太（岐阜大学大学院准教授）
戦後から現在に至る子ども像と教育制度の変遷をポストモダン思想で読み解く。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-241-7

いのちを育む教育学
吉岡良昌（東洋英和女学院大学教授）／**大川洋**（東京理科大学准教授）多面的ないのちの諸相をトータルにとらえ、自己肯定感を育む教育の理論と実践。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-143-4

デューイ・人間性実現への教育 ―米国カリキュラム開発を考える
海谷則之（龍谷大学教授）デューイの思想を発展的に継承し、教育荒廃が進むアメリカでの改革を検証。［A5判／三〇〇〇円］
ISBN 4-921146-57-8

学校身体の管理技術 ―規律訓練から環境管理へ
中井孝章（大阪市立大学大学院教授）
規律訓練から常時監視の管理へと教育モデルは変遷してきたが、そこに問題点はないのか。［四六判／二六二五円］
ISBN 978-4-86110-151-9

海峡を越えて ―京畿高等女学校の思い出
太田孝子（岐阜大学教授）日本植民地時代、朝鮮で教師をしていた日本人女性と朝鮮人の教え子・同僚にインタビュー。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-157-1

マスメディア

敵国語 ―ジャーナリズム―日米開戦とアメリカの日本語新聞
水野剛也（東洋大学准教授）日米開戦後、米政府による統制をうけつつも日本語新聞はその使命を果たすべく必死の後退戦を展開する。報道の自由か国益かで揺れる政府と、未曾有の危機に直面したジャーナリズムの命運を描きだす。［A5変型判／五四六〇円］
ISBN 978-4-86110-258-5

日系アメリカ人強制収容とジャーナリズム ―リベラル派雑誌と日本語新聞の第二次世界大戦
水野剛也（東洋大学准教授）「日系人強制収容・立ち退き問題」を新聞はどう報じたのか。精密な紙面比較・分析から権力とメディアの関係を明るみに出す、実証研究の精華！［A5変型判／四八三〇円］
ISBN 4-86110-038-0

台湾 ―メディア・政治・アイデンティティ
本多周爾（武蔵野学院大学大学院教授）
中国寄りか独立かで揺れる民衆のナショナル・アイデンティティと、政府の政策。台湾のメディア事情と政治との関係、民主化後の変遷を分析。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-216-5

マスメディア論 ―現場と社説と地方紙と
大西正行（十文字学園女子大学特任教授）政権交代、沖縄基地問題、新型インフルエンザ騒動などの大問題を全国紙・地方紙はどう論じたか。ネットに押されるなか、記者魂の復活をとなえる。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-228-8

心理

看護ケアと共感的理解 ―尺度の開発とコミュニケーションスキル
永野ひろ子（カウンセラー）医療がどれだけ発達しても、看護の基本は人間関係にある。患者への基本的理解度を客観的に測定し、相手の視点に立つための接し方を提案。［四六判／二八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-307-0

ロール・プレイング ―即興劇による人間の探求と治療
川幡政道（横浜市立大学教授）即興劇を通して自己の役割を創造し、日常生活に埋没した自発性の発見と訓練をうながす独創的な手法と実践。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-155-7

見捨てられる不安 ―家族と社会の現在
川幡政道（横浜市立大学教授）家庭内離婚、DV、拒食、うつ…病理にむしばまれ崩壊する現代の家族と社会。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-158-8

ココロのトリセツ
佐賀枝夏文（大谷大学教授）職場が怖い、ひきこもりから抜けだせない、子どもを怒鳴ってしまう…。無理をするとこじれるココロの問題。ありのままのあなたをつつみ、なでませる三一のヒント。［四六判／一三六五円］
ISBN 978-4-86110-282-0

環境心理学 ―環境デザインへのパースペクティブ
槙究（実践女子大学教授）豊富なデータと事例から人間と環境のかかわりを分析。環境心理学の全体像を見通す。［A5判／二四〇〇円］
ISBN 4-86110-010-0

心理学 ―梅津八三の仕事
中澤惠江（国立特殊教育総合研究所室長）**編** 天才心理学者の仕事を集成。（品切）［B5判三巻一四〇〇頁＋ビデオ＋カセット揃定価／八九二五〇円］

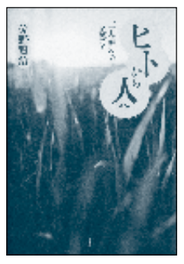
スピリチュアル

太陽と月からのおしえ
彦坂ナオコ（ライター）**文・ポッタ知子**（アーティスト）**絵** 陰陽思想を詩とイラストで表現。クリスタルヒーリング、料理など、二つの要素を日常生活に取り入れる具体的方法も提案。［B5判／一五七五円］
ISBN 978-4-86110-240-4

魂のかけら ―ある物理学者の神秘体験
佐川邦夫 物理学者の魂を突き動かす神秘体験。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-095-6

スピリチュアル心理学入門
石川勇一（相模女子大学教授）こころを扱いながら、これまで交流のなかった臨床心理学とスピリチュアリティをつなぐ。厳選された一二〇項目をやさしく解説する画期的な入門書！［A5判／二二〇〇円］
ISBN 978-4-86110-179-3

アジア史

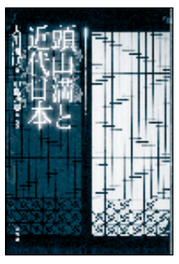


ヒトから人へ ― 〝一人前〟への民俗学
佐野賢治（神奈川大学教授／日本常民文化研究所所長）子供はどこから／仮親／福子・福助／胞衣／嬰児籠／一姫二太郎／名付け／産屋／七五三／児やらい／隠れ鬼／こけし／子守唄／疱瘡神／……ヒトが人になるための知恵を産育儀礼の民俗に見る。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-281-3

保生大帝 ―台北大龍峒保安宮の世界
尾崎保子（元昭和女子大学教授）保生大帝を主神として祀る台北大龍峒保安宮。信仰空間の深部に踏み込む宗教美術研究。［A5判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-256-1

かの冬、そして秋 ―僕の朝鮮戦争
柳宗鎬著／**白燦訳**／**太田孝子日本語校閲** 韓国に生まれ育った少年の雲らぬ眼がとらえた世界、人生、祖国。「この苦労を昔話として語るときが必ず来る」。［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-105-2

僕の解放前後 ―一九四〇―一九四九
柳宗鎬著／**白燦訳**／**太田孝子日本語校閲** 日本軍占領下に育った作家が少年期を回想する。韓国現代文学の旗手、初の翻訳。現場体験者のみが語れる圧巻の現代史！［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-164-9



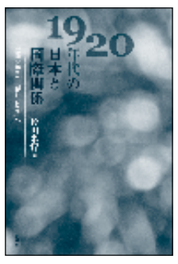
頭山満と近代日本
大川周明著／**中島岳志**（北海道大学准教授）**編・解説** 革新右翼の理論家が、伝統右翼の巨人を描く。敗戦直前の緊迫する状況下で書かれた幻の原稿、遂に発見！［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-134-2

つながりあう知 ―クララと明治の女性たち
福田須美子（相模女子大学教授）十代で来日し、勝海舟の三男と結婚、深く日本に入りこんだアメリカ女性の生涯。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-177-9

太平洋問題調査会［1925～1961］とその時代
山岡道男（早稲田大学教授）**編著**
世界初の本格的国際非政府組織は、何を成し遂げたか。［A5判／四八三〇円］
ISBN 978-4-86110-211-0

倭寇 ―商業・軍事史的研究
太田弘毅（東北女子大学教授）密輸商業団としての実態を探る。［A5判／一三六五〇円］
ISBN 4-921146-51-9

世間師・宮本常一の仕事
斎藤卓志（安城市職員）民俗学の偉人にとっての歩くこと、書くこと、生きることの意味を問いかける。［四六判／三三六〇円］
ISBN 978-4-86110-156-4



1920年代の日本と国際関係 ―混沌を越えて「新しい秩序」へ
杉田米行（大阪大学准教授）**編** 内政と外交の両面でさまざまな変転を迫られながら、新しい秩序を模索していた一九二〇年代の日本を多角的に再検討。［四六判／二六二五円］
ISBN 978-4-86110-262-2

営業部より発　本屋に行こう vol.9

リヤカーブックス（品川経済書店）
品川〜大崎駅周辺　平日不定期営業（HP、Twitterにて告知）
http://rearcarbooks.com/　Twitter@rearcarbooks

豆腐屋みたいな本屋さん

高層ビル群の谷間の広場でぽつんと本を売る様子に、磁石のように惹きつけられた。銀色にかがやくリヤカー。のぼりには「品川経済書店」の文字。面白そうなビジネス書が並んでいる。その光景にはなんとも言えないおかしさがあり、思わず笑ってしまう。だってリヤカー！

品川という場所柄、ターゲットはもちろんビジネスマンだ。「本を読む習慣があるひとは、こっちがなにもしなくても読むんです。全然ちがうほうを向いているひとに興味をもってもらうきっかけになればと思って」と店長の木村貴則さん。なるほど移動式書店とは、つい立ち寄ってみずにはいられない。

リヤカーに載せる本は、すべて木村さんが選ぶ。書店の棚にあっては見過ごしてしまいそうな『働く理由』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、『自分の仕事をつくる』（筑摩書房）、『人材育成の教科書』（こう書房）などを並べる。

忙しいビジネスマンにとって、日々うつり変わる新刊書の山のなかからこれぞという一冊を見つけ出すのは大変だが、この書店は隠れた名著と出会う手助けをしてくれる。

よいビジネス書とは？　長年の疑問をぶつけてみた。「壁にあたったらこうしなさい！　と断言するのではなく、どうやったら壁を越えられるかヒントをくれる、よき友人みたいな本、かな…」迷ったような口調に、ビジネス書への愛がにじむ。そんな本を見つけたくなったら、まずは木村さんを訪ねてみようと思う。

高層ビルのまわりにはいくつもの商店街が広がる。新しいものと古いものが融合するこの街にぴったりの書店だ。

帰ってきた mini 大河 しりあがり寿

第八幕　三つ巴の巻

上皇は側近をそばに招いた。
「で、野蛮人どもの様子はどうだ」
「はっ、源氏が優勢で平家を押しております」
「うむむ…」
上皇は険しい表情で考え込んだ。
実力を持つ武士たちをお互い戦わせることでなんとか貴族の立場を守ってきた。
それがどちらか一方だけになってしまってはバランスが崩れる。
「いかにしたらよいものかのう…」
今度は側近から顔を寄せてきた。
「三つ巴の策にございます」
「三つ巴？」
「さよう源平の二勢力でなく三勢力の均衡とすればにわかにどこかが天下をとるなどということはありますまい」
「なるほど」
「蛙、蛞蝓、蛇の三すくみのように、また古の中国では諸葛孔明による天下三分の計もございます」
上皇の目が輝いた。
「第三の勢力… 源平… ゲン… ペー…」
「そこに法皇が直に命令を下せる第三の勢力が挟まれば…」
「ゲン… チョク… ペー…」
「ゲー… チョク… ペー…」
「グー… チョキ… パー…」
こうして法王の計が実現することはなかったが、ジャンケンがこの世に生まれることになったのだ。

粋でシャイな横浜のおじさん

渡辺真理

祖父の代から横浜に住んでいるからか、〝横浜らしさ〟というものに、社会人になるまでほとんど気づかなかった。

「いやいや、高校くらいになったらさすがに東京に遊びに行ったり、旅行したりで横浜を外から見るでしょう？」と思われるかもしれない。が…自分でもビックリするほど地元にいた。近くの商店街で買い物をして、三渓園に散歩に行って、自転車で山下公園に行ったり、元町のタワーレコード（今はなくなってしまったけれど）に立ち寄ったり。穏やかすぎる十代だった。

働き始めて都心に通うようになってからだんだん、もしかしたらこれは横浜ならではかも…と、気づいたことがある。

仕事場で会うさまざまな業種の方々、例えば銀行や医学界、法曹界など、それぞれキチッとしていながら見た目や話し方、言葉選びに特色は滲み出るもの。

明らかに、〝横浜のおじさん〟は違うのだ。子供のころ、父や父の友人たちをごく普通の大人と思って見上げていたけれど、今思うとかなり変わった人が多い（父を含めて）。

服装がまず独特で、ゴッドファーザーに出てくるような恰幅よくいかつい割に気のいい手下が着てそうなダブルのスーツとか、アメリカの開拓者を思わせる真っ赤なチェックのシャツにテンガローハットとか、ものすごくレアそうだけど、ものすごく派手なアロハとか。普通の日にそうなので晴れ着というわけじゃない。

言動も個性的で、私も通っていた丘の上の家庭的な女子校に娘さんを通わせていた父の親友はシスターのことを西洋坊主と呼んで出入り禁止になったとか、進駐軍がいた頃から大方のことは「OK！　ネバーマインド！」で通すようになった別の親友はお巡りさんに道で止められても常に同じ対応だったとか。

そして「半ちゃん」「よしおちゃん」「しょうちゃん」など幼なじみ同士、何歳になっても「ちゃん」づけで呼び合って、仲がいい。誤解を恐れずにいうと、クレイジーケンバンドの横山剣さんを想像していただけると、近いかもしれない。もちろん剣さんはあれだけスペシャルなのだけれど、横浜では恐らく浮いたりはしない。

そんな、個性的で開放的で繊細なのに我が道を行く粋でシャイなおじさんたちは、東京の防波堤の役割をしてきた横浜だからこその明るく強い素敵な産物なんだと、濱っ子の私はとても誇らしく思っている。

（フリーアナウンサー）

社会◎歴史

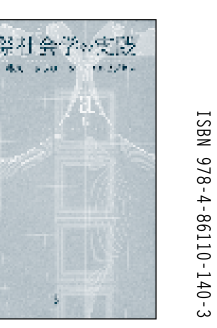
近代スコットランドの社会と風土 ―〈スコティッシュネス〉と〈ブリティッシュネス〉の間で
小林照夫（関東学院大学名誉教授）　イングランドと対峙しつつも共存してきた"国家なきネイション"の独自の歩みを、政治・宗教・産業・都市の観点から多面的にたどる。［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-257-8

インターネット文化の諸相 ―グローバリゼーションを生きぬく知的戦略
若林一平（文教大学教授）　ネットを生みだしたアメリカの核戦略、水素燃料の登場で情報産業化するエネルギー産業…。身近な事例から海外事情までを取り上げ、ネット社会における日本のあるべき姿を提示する。［四六判／三五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-267-7

ネットワーク社会と空間のポリティクス ―都市・モダニティ・グローバリゼーション
大澤善信（関東学院大学教授）　場所、経験、身体…あらゆるものが〈情報〉として脱質料化されてしまうこの世界で、何が展望されるのか。ハーバーマス、カステル、ギデンズらの論考をたどりつつ、グローバリゼーションの批判理論を企てる。［四六判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-202-8

保守のヒント
中島岳志（北海道大学准教授）　混迷の日本をどう捉えればいいのか。保守と右翼の違い、マニフェスト選挙の問題点など、気鋭の学者が近代日本史をふまえつつ論じる。宮台真司氏とのロング対談を収録。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-227-1

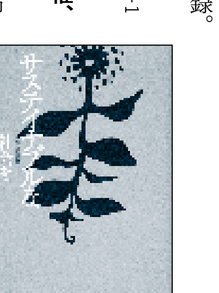
グローバリゼーション、市民権、都市 ―ヘクシスの社会学
岩永真治（明治学院大学教授）　都市と市民社会の関係を歴史的に問い直しながら、国境を越えた市民権を構成する単位としての都市社会を展望。［A5判／三五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-140-3



国際社会学の実践 ―国家・移民・NGO・ソーシャルビジネス
三橋利光（東洋英和女学院大学教授）　個人から始まる行動が、家族→地域社会→国民国家社会→大地域圏を経て、地球社会に達する過程を具体例とともに描き出す。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-263-9

国際社会学の挑戦 ―個人と地球社会をつなぐために
三橋利光（東洋英和女学院大学教授）　二一世紀に生きる個人が自己を充実させながら「望ましい地球社会」を目指して生きるための方向を模索。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-142-7

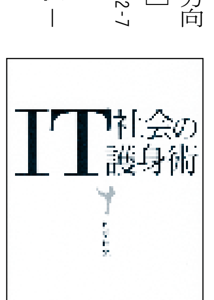
エスノメソドロジーの可能性 ―社会学者の足跡をたどる
椎野信雄（文教大学教授）　ガーフィンケルの提唱した方法の可能性をミードらの足跡をたどりつつ探る。［A5判／四九〇〇円］（品切）



サステイナブルな社会を目指して
木村武史（筑波大学准教授）編著　サステイナビリティを経済・開発、生命・社会、思想・宗教などのさまざまな観点から多面的に論じる。［A5判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-141-0

現在と性をめぐる9つの試論 ―言語・社会・文学からのアプローチ
小玉亮子（お茶の水女子大学教授）編著　働き方・生き方の自由が常識となった今も作動するジェンダーの呪縛。［四六判／一八九〇円］
ISBN 978-4-86110-117-5

学習のエスノグラフィー ―タンザニア、ネパール、日本の仕事場と学校をフィールドワークする
川床靖子（大東文化大学教授）　学習における知識と実践の関係を問い直し、学習環境デザインの未来を提示。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-113-7



IT社会の護身術
佐藤佳弘（情報文化総合研究所所長）　「ケータイは身体に悪い？」「情報漏洩（ろうえい）を防ぐ万全のセキュリティは？」暮らしを守る心構えをやさしく解説。［四六判／二三〇〇円］
ISBN 978-4-86110-204-2

ガラスのなかの古代ローマ ―三、四世紀工芸品の図像を読み解く
藤井慈子（ローマガラス研究家）　異教からキリスト教への変遷を映す金箔ガラス。プテオリとバイアエのランドマークを描く景観カット付球状瓶。非文献史料が明らかにする庶民の暮らし、祈り。［A5判／五八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-184-7

ガラスの文明史
黒川高明（日本ガラス工芸学会理事）　人類が初めてつくった物質＝ガラスの歴史を、半世紀近くガラス製造に関わってきた著者が分かりやすく解説。［A5判／五〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-172-4

フランス革命を旅したイギリス人 ―リグビー博士の書簡より
エドワード・リグビー著／川分圭子（京都府立大学准教授）**訳**　バスティーユ襲撃の記録を含む書簡は、当時のヨーロッパの文化・人的交流をいまに伝える。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-171-7

狩猟の文化 ―ドイツ語圏を中心として
野島利彰（駒澤大学教授）　狩猟方法、解体処理技術、密猟の実例をはじめ、狩猟学や狩猟文学、信仰との関連を詳述。［四六判／三一五〇円］
ISBN 978-4-86110-210-3

［増補改訂］ハプスブルクの実験 ―多文化共存を目指して
大津留厚（神戸大学教授）　複雑巧妙な政策により多民族・多言語・多文化共存を実現した「実験」の意義を問う。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-097-0

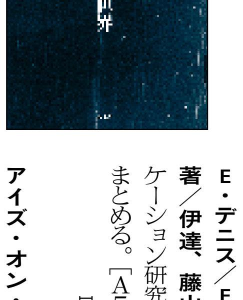
イングランドの地名 ―起源と歴史を訪ねて
ケネス・キャメロン著／吉見昭徳（明治学院大学名誉教授）**訳**　ケルト、アングロ・サクソン、スカンジナビア、フランスなど、さまざまな民族や地域に由来する地名を分析することで見えてくる、イングランドの歴史・自然・風土。［A5変型判／四五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-290-5

多民族の国イギリス ―4つの切り口から英国史を知る
唐澤一友（駒澤大学准教授）　国の構成、国旗、紋章、英語。やさしい切り口から、奥深いところへ。［四六判／二一〇〇円］
ISBN 978-4-86110-148-9

京都の中のドイツ
青地伯水（京都府立大学准教授）編　祝祭、造園、教育、建築、思想の視点から、京都がどのようにしてドイツ文化を受容したのかをさぐる。［四六判／三三六〇円］
ISBN 978-4-86110-266-0

黒人差別と国民国家 ―アメリカ・南アフリカ・ブラジル
A・W・マークス著／富野・岩野・伊藤訳　「白人統一」「社会安定」のために国家は黒人差別を利用してきた。なぜ「黒人」なのか。［A5判／六五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-107-6

ブラジルの都市問題 ―貧困と格差を越えて
住田育法（京都外国語大学教授）**監修／萩原八郎・田所清克・山崎圭一編**　著しい経済発展をとげながら、いまなお貧困にあえぐ多くの人々がいるブラジルの巨大都市がかかえる諸問題に、多様な角度からアプローチ。［四六判／三八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-173-1



変容する冷戦後の世界 ―ヨーロッパのリベラル・デモクラシー
永松雄彦・萬田悦生（京都外国語大学教授）編　旧西側諸国と旧東側諸国における議会制民主主義の諸相を探る。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-224-0

イランとイスラム ―文化と伝統を知る
森茂男（大阪大学教授）編　つねに世界情勢の「台風の目」となる国イランを理解する。古代宗教、神秘主義から文学、祭りや習俗、テヘランのファッションチェック、ナショナリズムまで。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-215-8

牡牛と信号 ―〈物語〉としてのネパール
山本真弓（山口大学准教授）**／序・佐々木幹郎**（詩人）　ネパールの錯綜する現実を描きつくす小説のような現代史。谷川俊太郎氏推薦。［四六判／二三一〇円］
ISBN 4-921146-60-8

アメリカ・コミュニケーション研究の源流
E・デニス／E・ウォーテラ共編著／伊達、藤山他訳　コミュニケーション研究の歴史を総合的にまとめる。［A5判／四五〇〇円］
ISBN 4-86110-024-0

アイズ・オン・エイズ ―開発援助における感染症対策
成田弘成（桜花学園大学教授）編著　アフリカ、中南米、アジア、太平洋の国々を調査研究。［A5判／二八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-150-2

19歳のライフデザイン
江戸川大学ライフデザイン学科編　大学の勉強をロハスに活かそう！［A5判／一五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-125-0

物権法概説
小泉健（ノースアジア大学学長）　通説的な見解を軸として代表的な判例や有力な学説に関しても記述。［A5判／二九四〇円］
ISBN 978-4-86110-221-9

刺青墨譜 ―なぜ刺青と生きるか
斎藤卓志（安城市職員）　刺青を入れている者、彫師へのインタビューにより、刺青の存在論的意義を明らかにする。［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-86110-053-4

ブルマーはなぜ消えたのか
中嶋聡（医師）　「人の嫌がることはしない社会」に負けない男の知的参考書。中年諸君、立ち上がれ！［四六判／一三六五円］
ISBN 978-4-86110-103-8

「思想の場所」

十　中目黒

中島岳志
Takeshi Nakajima

写真：三輪和美

東急東横線・中目黒駅を降りると、すぐそばに目黒川が流れている。桜の名所として知られる川沿いは、雑貨店やカフェ、ファッション店が軒を連ねる。都内有数の人気スポットは、いつも若者で賑わっている。

田楽橋を渡り恵比寿方面に向かって歩くと、別所坂に行きつく。この坂は思いのほか勾配がきつい。しかも道幅は細く、蛇行しているため、先が見えない。周囲には緑も多く、ここが東京であることを忘れそうになる。

坂を上がると、木々が生い茂る一角に出る。現在は結婚式場が建っているが、江戸時代には北方探検で知られる近藤重蔵の別宅があった。彼は邸内に富士山を模した山を造り、これを「目黒新富士」と呼んだ。富士講が盛んな時代、ここは名所となり、安藤広重の「名所江戸百景」にも描かれた。

この景勝地に、昭和初期、『やきものの鑑賞』などの著作で知られる秦秀雄が、「驪山荘」という店を構えた。当時の建物は現存しないが、その様子は秦の著書『目ききの眼』（徳間書店、一九六一年）掲載の写真でうかがうことができる。

一九四二年七月。「驪山荘」で座談会が開かれた。――「近代の超克」。

この記録は『文学界』一九四二年一〇月号に掲載され、河上徹太郎や小林秀雄、中村光夫、林房雄、亀井勝一郎、吉満義彦、西谷啓治、鈴木成高、諸井三郎、三好達治といったそうそうたる面々が登場した。戦後も竹内好や廣松渉などが取り上げ、近年も繰り返し議論の俎上に上げられる。

座談会は、大東亜戦争勃発から約半年後に行われた。巷では日本軍の快進撃が伝えられ、アジア解放に湧きたっていた。そのような中、座談会では欧米列強に対する軍事的勝利を超えて、西洋近代の文明論的超克が模索された。日本が主体となって「近代」を乗り越えるヴィジョンが、一流の知識人たちによって論じられたのである。

しかし、議論は混迷した。当然ながら、論者によって「ポスト近代」の具体像は異なった。さらに克服すべき近代の捉え方も異なった。見解は一致せず、討論は空転した。

この座談会に、場違いな一人の物理学者が出席していた。

菊池正士。

当時、大阪帝国大学の教授で、原子核物理学の若きホープだった。この座談会に菊池を招いたのは、司会を務めた河上徹太郎だった。河上は菊池の著書『物質の構造』に注目し、その方法に近代物理学を超克する肉体の衝動を見出した。

出席した菊池は、終始、押し黙ったままだった。しかし、座談会の半ば、突如キリスト者の吉満から宗教と科学の関係について意見を求められた。科学と宗教が相矛盾するという「通俗的な科学観」に批判的だった吉満は、気鋭の物理学者に自己の見解への同意を求めたのである。

だが、菊池の答えは冴えなかった。科学の無謬性という観念は超克しなければならないものの、具体的な像を示すことはできないと述べるにとどまり、参加者を落胆させた。河上から再度話題を向けられても、菊池は明確な見解を述べることが出来なかった。彼は「科学には古代も近代もない」「科学自体の問題としてはその時代精神と云ふものと何も直接の関係はないと思ひますね」と述べ、場を白けさせた。

参加者の多くは、宗教と科学の一致に「近代の超克」の方向性を見出していた。小林秀雄は、論旨の定まらない菊池を嘲笑気味に問い詰め、見解を質した。若き物理学者から鋭い見解が出されることを期待した河上は、「どうも貴方の話と、貴方のやつた仕事とは違う気がする」と皮肉を述べ、期待はずれの菊池を突き放した。

さすがに悔しかったのだろう。菊池は座談会の後、「科学の超克について」という論考を『文学界』に掲載した。ここで菊池は科学者の必然的な帰結として「唯物論的な考へ方」が出てくるとしながらも、形而上学的な存在を感得するためには「神秘的な飛躍」が必要であると強調した。そして、そのような「飛躍」は、東洋的な「我の滅却」という「無」の精神が重要であると論じ、にわかに京都学派の哲学に同調した。

菊池は戦中、原子爆弾開発の可能性を模索したが、ウラン235の同位体分離に巨大な装置と月日が必要との結論に達し、断念した。そして、戦後は日本原子力研究所の理事長となり、原子力委員会委員・参与を歴任した。彼は原子力発電の必要性を先頭に立って説き、その安全性を強調した。

東洋的精神による「近代の超克」を説いた菊池は、なぜ近代科学が集約された原発に、後半生を賭けたのだろうか。その矛盾を、彼自身は自覚していたのだろうか。

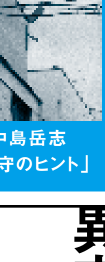
別所坂を下ると、今年も満開の桜並木が目に入る。沿道は花見客でごった返している。しかし、その木々にも、足元にも、福島第一原発から飛散した放射性物質が降りそそいだ。

見解が定まらず、思想が揺らいだ菊池正士。彼の論理は、一九四二年の中目黒から一貫して杜撰だった。そして戦後の日本人は、その杜撰な論理を、電気という欲望と共に抱きしめた。

一方、桜は七〇年後の今日も変わらず美しい。その艶やかな花は、賢しらな人間を置き去りにして、今年も静かに散っていく。

（社会学者）

好評既刊

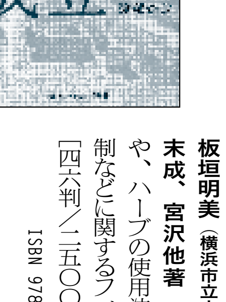


中島岳志
「保守のヒント」

人類学

身体と境界の人類学
浮ヶ谷幸代（相模女子大学教授）　糖尿病患者は、訓練によって自分の血糖値を言い当てることができるようになる…わくわくするようなトピックと豊富な事例で人類学の魅力を伝える。［A5判／三一〇〇円］
ISBN 978-4-86110-244-8

ナショナリズムと宗教 ―現代インドのヒンドゥー・ナショナリズム運動
中島岳志（北海道大学准教授）　インド国内メディアでさえ取材の難しい過激なナショナリズム運動の理念と活動実態に迫る。［四六判／三八〇〇円］
ISBN 4-86110-048-8



インカ帝国の成立 ―先スペイン期アンデスの社会動態と構造
渡部森哉（南山大学准教授）　アンデス諸社会の興亡を新たなモデルによりダイナミックに描く。［A5判／八〇〇〇円］
ISBN 978-4-86110-205-9

やわらかな開発と組織学習 ―ニジェールの現場から
関谷雄一（東京大学准教授）　開発援助の過程を組織学習と認知科学の視点から分析、ボランティア組織のあるべき姿を探求。［A5判／四八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-208-0

Social Development, Culture, and Participation: Toward theorizing endogenous development in Tanzania
阪本公美子（宇都宮大学准教授）　経済指標のみに着目した開発観を改め、フィールドワークで得た市民の声と自然・文化の多角的分析を基に内発的発展のあり方を探る。西川潤氏絶賛！（英文）［A5判／六八〇〇円］
ISBN 978-4-86110-174-8

「精霊の仕業」と「人の仕業」―ボルネオ島カリス社会における災い解釈と対処法
奥野克巳（桜美林大学准教授）　インドネシア辺境の暮らし、神話、儀礼、癒し、呪い、狂気。［A5判／六八〇〇円］
ISBN 4-86110-000-3

帝国医療と人類学
奥野克巳（桜美林大学准教授）　帝国主義時代以降、世界中に広まった近代医療の自明性を問う。［四六判／二三〇〇円］
ISBN 4-86110-062-3

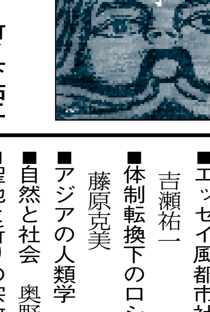
精霊の子供 ―コモロ諸島における憑依の民族誌
花渕馨也（北海道医療大学准教授）　憑依儀礼が自他の区別を融解、もう一つの「現実」を作り上げる。［A5判／六八〇〇円］
ISBN 4-86110-031-3

癒しと呪いの人類学
板垣明美（横浜市立大学准教授）　ヴェトナムとマレーシアでのフィールドワークから「癒し」の諸相をさぐる。［四六判／二九四〇円］
ISBN 4-921146-86-1

ヴェトナム　変化する医療と儀礼
板垣明美（横浜市立大学准教授）**編／末成、宮沢他著**　結婚式・葬式や、ハーブの使用法、村の医療体制などに関するフィールドワーク。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-145-8

学問の暴力 ―アイヌ墓地はなぜあばかれたか
植木哲也（苫小牧駒澤大学教授）　江戸末期に犯罪とされたアイヌ墓地発掘は明治期、「学術調査」の名の下に公認される…。事例を丹念に追い、知はいかにして権力性と暴力性を帯びるのかを探る。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-152-6

シリーズ 来るべき人類学



セックスの人類学
奥野克巳・椎野若菜・竹ノ下祐二編　イルカやサルの性生活から、SM、性転換、ペニスピンまで、フィールドワークを通じて動物と人間の性に肉薄。［四六判／二三一〇円］
ISBN 978-4-86110-180-9

経済からの脱出
織田竜也・深田淳太郎編　経済の彼方へ。生命、市場、時間、貨幣、感情、宗教、贈与…新たな知が、危機のなかから姿を現す。［四六判／二五〇〇円］
ISBN 978-4-86110-200-4

宗教の人類学
吉田匡興・石井美保・花渕馨也編　遠い存在のようでいて、日常に埋め込まれている現代の宗教を我が身に引き寄せる。［四六判／二一〇〇円］
ISBN 978-4-86110-216-5

異文化コミュニケーション事典
多文化・多言語が共存する国際社会に生きる現代人必備の書
項目数 727　執筆者 154
2012年 9月刊行予定
編集委員 石井敏・久米昭元・浅井亜紀子・伊藤明美・久保田真弓・清ルミ・古家聡

春風接人

かぜ、はる、つくえ、ほん、くつ、みち、ち、ち、はは、だいとうりょう、はな、もり、しずく、あめ、かわ、そら、うみ、みみ、て、あし、ほうしゃのう、じめん、とい、こたえのない？ テレビ、えいが、パソコン、ともだち、たちき、ふるさと、ひかり、ダンス、たのしい、かなしい、くやしい、ゆめ、がれき、いかり、やりばのない。指差しできるもの。指差しできないもの。指差しできなくても、それと名指しできるものがある。ところで、わたしは。わたしは、名づけられぬものによっても生かされている。この星のことば。

ほし、ちきゅう、ひこうき、じゅうりょく、うちゅうせん、みらい、タイムマシン、ちんもく、にじ、こども、こうねん、ひとり、みぎ、うえ、やまない、し、せい、ことば、……

（三）

刊行予定

■京都学派の歴史哲学　小野寺功
■新版・大地の哲学　小野寺功
■フッサール現象学　岡山敬二
■ブーレ・マルクス／庭園の美学　J・レナール編著／荒井芳廣訳
■カント伝　M・キューン／菅沢龍文、山根雄一郎共訳
■カントの人権思想　菅沢龍文
■タナトスの股肱　西欣也
■史的イエス研究覚書　波多野直人
■釈譜詳節（中）　河瀬幸夫訳
■教養主義者・河合榮次郎　青木育志
■直接知の探究　松丸壽雄
■心理療法における〈他者〉の問題　長田陽一
■哲学の挑戦　西日本哲学会
■社会学的システム理論の軌跡　赤堀三郎
■マーケティング戦略構築　鈴木宏衛
■エッセイ風都市社会学　吉瀬祐一
■体制転換下のロシア軽工業　藤原克美
■アジアの人類学　片岡樹他編
■自然と社会　奥野克巳他編
■聖地と祈りの宗教社会学　岡本亮輔
■アフリカから愛を込めて　多摩アフリカセンター編
■海都ヨコハマ　小林照夫編
■現代中東政治学　末近浩太
■異文化コミュニケーション事典　石井敏・久米昭元編
■社会福祉システムの構造　吉村公夫
■近代移行期の港町における奴隷・移住者・現地人妻妾　弘末雅士編
■左伝の女たち　尾崎保子
■ヴェネツィア　鳥越輝昭
■イェイツ夫人の生涯　サドルマイヤー著／大野光子・佐藤容子訳
■スウェーデン民話名作集Ⅲ・Ⅳ　藪下紘一訳
■新しい国家　W・H・マロック著／澤井勇訳
■T・S・エリオットの読書会　堀田三郎他
■Contemporary Irish Plays　佐竹晶子
■自由と尊厳を超えて　B・F・スキナー著／山形浩生訳
■カフェの女主人　レイモン・ジャン著／桑原隆行訳
■樋口一葉　笹川洋子
■『土佐日記』の言説研究　佐藤美弥子
■荒野へⅡ　中井晨
■教育の哲学　J・パスモア著／小澤喬訳
■デューイ教育学の源流　鈴木順子
■薙刀と学校教育　井上アヤ子
■教師のゲートキーピング　S・ソーントン著／渡部竜也他訳
■21世紀の社会認識教育にむけて　蔭山雅博
■福祉支援実践論　八巻正治
■昭和戦前期の少年教護実践史　上・下　佐々木光郎
■野の学校　佐々木光郎
■健康自然塾　川村協平
■この世の人生は戦い　橋本真弓・斎藤卓志
■スペイン語語源辞典　太田強正
■暮らしに役立つ日本語便利帳（スペイン語版）　長谷川哲子
■レジェ論　山本友紀
■グレゴリオ・デ・セスペデス　パク・チョル著／谷口智子訳
■盆栽 日本の文化　川崎仁実
■バリューアップ写真紀行 海外篇　渋谷興二
■エコツーリズムの民族誌　須永和博
■なぜ男は笙野頼子を畏れるのか　海老原暁子
■江戸・東京の下肥市場　田島夏与
■山ふたり3　三輪敏弘・和恵
■もう映画はやめた　パトリス・ルコント著／桑原隆行訳
■理系のためのロジカル英語入門　佐藤美弥子
■親子新聞　三輪敏弘・和恵
■マジマジの乱再考　岩崎明子
■ミクロ経済学と時事問題　高崎仁良
■プラグマティクス・リサーチ&ペーパー　田中典子
■多文化組織の日本人リーダー像　石黒武人
■ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル　U・ビュヒター－レーマー著／米澤孝子訳
■日本人のための英語学習論　小谷悠紀子
■横浜市立大学叢書

深い精神性と共鳴する実学
出版をお考えの方へ
良書の企画をお待ちしています。電話かメールにてお気軽にお問い合わせください。
春風社
TEL (045)261-3168
info@shumpu.com

AD : Tamon Yahagi